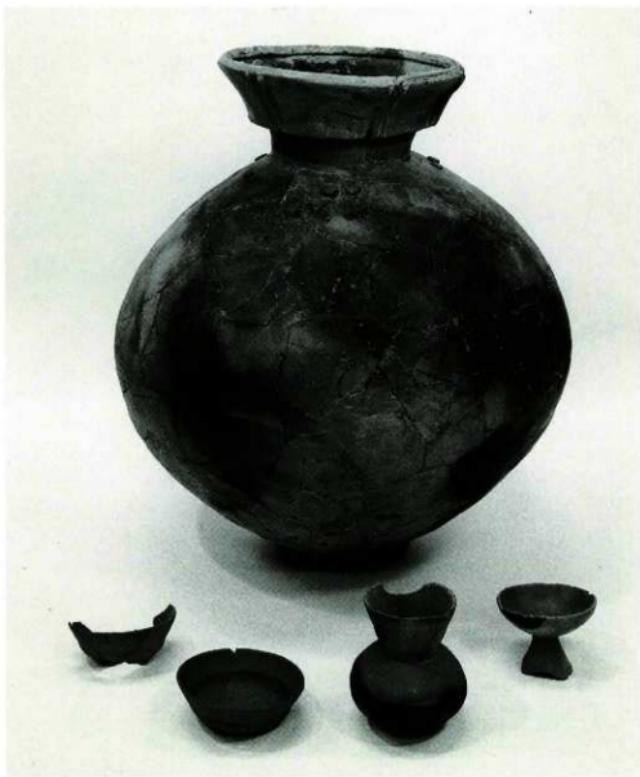


ARIDUKA-SITE

# 蟻塚遺跡

中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



2004・3

長坂町教育委員会

峡北地域振興局農務部

A R I D U K A - S I T E

# 蟻 塚 遺 跡

中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2 0 0 4 • 3

長坂町教育委員会

峠北地域振興局農務部

## 序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国樂オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、町内には200ヶ所以上もの遺跡が確認されており、県内でも有数の遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護を図りつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための埋蔵文化財発掘事業を推進しております。

本書は平成15年度に、中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う緊急発掘調査を実施した蟻塚遺跡の調査報告書です。蟻塚遺跡では縄文時代の土器や石器、古墳時代の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡などが発見されました。小さな谷部に位置する本遺跡にはるか昔からの先人たちの足跡が残されていたことは、この地で生活を営んできた近隣のかたがたにとっても驚きであったようです。今後私どもいたしましては調査の成果を地域のかたがたをはじめ多くの方に活用していただけるよう努力を重ねてまいりたいと考えております。

最後に、蟻塚遺跡の発掘調査にあたり、格別なご理解をいただいた長坂上条地区の皆様をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が広く教育や研究の場で活用されることを期待しています。

2004年3月

長坂町教育委員会  
教育長 小尾 章臣

## 例　　言

1. 本書は、2002(平成14)年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条字蟻塚地内に所在する蟻塚遺跡の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う事前調査であり、山梨県豊北地域振興局農務部より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。

3. 発掘調査組織は以下のとおりである。

事業主体 長坂町教育委員会

事務局 教育長 小尾幸臣

(教育課長事務取扱兼務)

社会教育係長 日向明美(～平成15年9月)

奥石君夫(平成15年10月～)

調査担当 長谷川誠

発掘作業員 秋山かつゑ 大柴富子 小尾トヨ子

國府田幸吉 小林敏恵 小林 裕

小林立枝 清水純代 清水三恵

清井義雄 名取初子 畑 梅子

宮原征人 矢ヶ崎健三 横山幸男

渡辺早月

大山達也 小杉秀幸 小蘭陽介

矢花由希子(以上4名 制作大学学生)

整理作業員 有野明子 小澤恒子 清井ゆき枝

吉田光男

4. 本書の執筆・編集は、長谷川誠(長坂町教育委員会臨時職員)が行った。

5. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関・各位に委託した。

基準点測量・空中写真測量(株)シン技術コンサル

炭化材分析(株)パリノ・サーヴェイ

6. 遺構・遺物の写真撮影は長谷川が行った。

7. 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。

8. 発掘調査および報告書作成にあたっては、下記の方々に多大なご指導、ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である。

雨宮正樹(高根町教育委員会) 杉本充(白州町教育委員会) 高須秀樹(双葉町教育委員会) 渡邊泰彦(大泉村教育委員会)

## 凡　　例

1. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺構 調査区全体図:1/250

住居跡・掘立柱建物跡:1/60または1/80

溝:1/80

土坑・カマド:1/30

遺物 繩文土器:1/3

石器:2/3または1/3

古墳時代土師器:1/4

土師器・須恵器:1/4

2. 遺構・遺物図版中のスクリーントーンは以下のとおりである。

焼土 

黒色土器  須恵器 

3. 拓影図で両面を載せているものは、外面-断面-内面の並びで配置している。

4. 遺構および遺物写真的縮尺は統一されていない。

5. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

## 目 次

### 序

#### 例言・凡例

本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経緯と概要	1
1. 調査に至る経緯	
2. 調査の概要	
第2章 遺跡周辺の環境	1
1. 地理的環境	
2. 歴史的環境	
3. 基本層序	
第3章 発見された遺構と遺物	2
1. 住居跡	
2. 掘立柱建物跡	
3. 土坑	
4. 清	
5. 遺構外出土遺物	
第4章 住居跡出土炭化材の年代と樹種	5
第5章 調査の成果と課題	7
参考文献	8

## 挿図目次

第1図 長坂町遺跡分布図	
第2図 調査区配置図	
第3図 調査区全体図	
第4図 1号住居跡	
1号住居跡出土状況	
第5図 2・3号住居跡	
2号住1号カマド	
第6図 2号住2号カマド	
2号住遺物出土状況	
第7図 3号住遺物出土状況	
第8図 4号住居跡	
第9図 6号住居跡	
第10図 6号住遺物出土状況①	
第11図 6号住遺物出土状況②	
第12図 7号住居跡	
7号住1号カマド	
第13図 7号住2号カマド	
7号住炭化物出土状況	
7号住ピット5・6	
第14図 7号住遺物出土状況	
第15図 8号住居跡	

8号住カマド	
第16図 8号住遺物出土状況	
第17図 9号住居跡	
9号住遺物出土状況	
第18図 10号住居跡	
1号掘立柱建物跡	
1号溝	
1号土坑	
第19図 1号住居跡、2号住居跡出土遺物	
第20図 2号住居跡、3号住居跡出土遺物	
第21図 4号住居跡、6号住居跡出土遺物	
第22図 7号住居跡、8号住居跡出土遺物	
第23図 9号住居跡、10号住居跡出土遺物、土坑、ピット、遺構外出出土器	
第24図 遺構外出出土器	
第25図 遺構外出出土器・石器	
第26図 遺物出土状況	
第27図 遺構変遷図	

## 表 目 次

第1表 長坂町遺跡地名表	
第2表 放射性炭素年代測定および樹種同定結果	
第3表 扇半較正結果	
第4表 石器一覧表	
第5表 遺構内ピット一覧表	
第6表 土坑・ピット一覧表	
第7表 土器一覧表	
第8表 遺構別出土上器内訳表	

## 写 真 図 版

図版1 調査区全景（南から）	
図版2 調査区全景（真上から）	
1号住居跡全景（西から）	
1号住遺物出土状況	
2・3号住居跡全景（西から）	
2号住1号カマド	
図版3 2号住2号カマド	
3号住遺物出土状況①	
3号住遺物出土状況②	
4号住居跡全景（南から）	
6号住居跡全景（西から）	
6号住遺物出土状況	
7号住居跡全景（南から）	

- 7号住炭化材出土状況  
図版4 7号住居跡2サカマド  
7号住遺物出土状況  
8号住居跡全景(南から)  
8号住カマド  
9号住居跡全景(南から)  
9号住遺物出土状況  
10号住居跡全景(南から)  
1号土坑遺物出土状況  
図版5 出土遺物①  
図版6 出土遺物②  
炭化材剖面拡大写真

## 第1章 調査の経緯と概要

### 1. 調査に至る経緯

#### 1. 調査にいたる経緯

山梨県は、八ヶ岳南麓において南北に走る国道や地方主要道路を東西に結び、地域間の連絡・連携を強化するために中山間活性化ふれあい支援農道の整備を計画した。それは農産物及び畜産副料などの流通・輸送を合理化し、地域の農業や酪農の振興を促進するためでもあり、事業の推進が急がれた。

2000（平成12）年、町産業課を通じて町教育委員会に、農道施工区間に埋蔵文化財包蔵地有無の照会があり、その該当箇所を回答した。しかし、包蔵地以外にも遺跡が存在する可能性が高いので、工事優先区間から順次試掘調査を実施することとなった。2002（平成14）年10・11月に長坂上条地区において試掘調査を行い、その結果字蟻塚地内で新たに遺跡が発見され、その遺跡を「蟻塚遺跡」と登録した。

同遺跡内の施工箇所について、山梨県岐北地域振興局農務部・町産業課、町教育委員会が協議し、施工方法が遺構保存に影響を与えるものであったため、発掘調査を実施することになった。また、工程上、同箇所を緊急に施工する必要があったので、発掘調査も同年度に実施してほしいとの要請があり、町教育委員会内で事業調整し、緊急に同年度末に発掘調査を実施することになった。

2003（平成15）年1月に岐北地域振興局農務部より埋蔵文化財発掘の通知が提出された。

発掘調査は町直営で行い、同年2月10日に開始し、同年3月31日に終了した。整埋作業は同年4月1日より開始し、翌2004（平成16）年3月31日に終了した。

### 2. 調査の概要

蟻塚遺跡内における今回の調査面積は1617m<sup>2</sup>である。農地整備にともなう発掘調査のため調査区は東西約80m、南北に約20mと東西に細長い形をしている。

発掘調査・遺構測量の基準として国土座標にあわせ10m間隔で測定区にグリッドを設定した。南西を原点として、西から東方向に1~11、南から北方向にA~Fとグリッド番号をつけた。

もともと畑地であったため40~50cmほど耕作土が堆積しており、この耕作土を重機により取り去り、遺構確認面になると丁寧に精査をし、遺構を確認していく。

遺物は、表土巾から出土したものは調査区一括としてまとめ、それ以降は出土原位置で光波測量機による記

録・取り上げ作業をし、必要なものは簡易造り方による手実測で図化していく。遺構内の遺物については、その遺構出土のものとして取り上げていった。遺構は土層断面・遺構平面図を簡易造り方による手実測、または光波測量機により図化した。全体図は空中写真測量で図化した。また、調査の状況に応じて写真撮影を行った。

調査後は続けて整理作業に入り、2004（平成16）年3月に完了した。

発見された遺構は、古墳時代前期の堅穴住居跡が3軒、平安時代の堅穴住居跡が6軒、掘立柱建物跡1棟、土坑1基、ピット16基、時期不明の溝が1条などである。

## 第2章 遺跡周辺の環境

### 1. 地理的環境

本遺跡は山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条字蟻塚に所在する。長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北に細長い町であり、本遺跡のある長坂上条地区は町の中央部に位置し、長坂駅や公共施設などがあり町の中心部となっている。

長坂町は八ヶ岳を形成する北側の山間部と、八ヶ岳から放射状に流れる河川の氾濫原を中心とした町東部の緩斜面地と、河川の浸食によりいくつもの谷が形成された町西部の尾根状台地部の大きく3つの地形に分けることができる。

長坂上条地区は尾根状台地部に位置している。塩川に向けて流下する小河川の浸食により、いくつもの谷が形成されており、舌状台地が発達している。台地は南西の方角に伸びており、谷も南西に向かい口を開いている。長坂上条地区では台地上に集落が営まれ、小さな谷部を利用して農作が行われてきた。

本遺跡は、その長坂上条地区の東部にあり、舌状台地に挟まれた小さな谷の奥部に位置する。遺跡の標高は683m~687mほどであった。

### 2. 歴史的環境

本遺跡がある長坂上条地区は、遺跡の宝庫として古くから周知されていたものが多い。その中には県下で初めて学術調査された遺跡として学史的に非常に重要な長坂上条遺跡がある。長坂上条遺跡のすぐ北側の台地上には、縄文時代前期~中期にかけての大集落である酒呑場遺跡がある。山梨県埋蔵文化センターにより4次にわたる調査が行われており、縄文時代前期~後期にかけての住居跡、土坑などとともに、古墳時代の集落も発見されている。

また本遺跡の周辺では農道などの整備により近年発掘調査が多く行われている。本遺跡から小さな谷を挟んで一つ東側の台地上には段道遺跡がある。段道遺跡は2001(平成13)年度に町教育委員会により発掘調査され、縄文時代中期後半昔利式期の住居跡6軒などが確認された。また本遺跡の西側の台地上には上条竪久保遺跡がある。平成15年度に町教育委員会により調査され、縄文時代中期中葉から後葉にかけての住居跡6軒などが確認されている。

### 3. 基本層序

1層として表土にあたる耕作土があり、40~50cmほど の深さで堆積している。その下に黄褐色土層の2層があり、これが地山に当たる。よって耕作土を取り外した段階で造構の確認面となる。3層には暗褐色土層が堆積しており、4層には粘土質土を多く含む灰褐色土となる。調査区東西の端からは3層が確認されておらず、2層の下にすぐに4層がくることから、調査区の中心部には小さな埋没谷があったと考えられる。

## 第3章 発見された遺構と遺物

### 1. 住居跡

#### 1号住居跡

(位置) C-3グリッド

(重複) なし

(形状) 方形を呈するが、少しゆがんでいる。

(床面) 北東部の焼土が検出された付近が硬くしまっている。それ以外は、さほど踏み固められてはいない。

(施設) 北壁中央部から東壁、そして南壁の途中にかけて1条、西壁に1条、周溝が巡っている。住居の北東部には焼土が検出されており、その付近には人頭大の礫が5個検出されていることから、カマドの跡とも考えられたが、はっきりとは判別できなかった。柱穴と考えられるビットは4基検出されている。

(遺物出土状況) 全部で260点ほど遺物は出土しているが、住居の東寄りに固まって出土する傾向にある。そのうちロクロ甕は小片も合わせると100点出土しており、最も多く出土している。

(遺物) 第19図。1は甲斐型の壺である。内面には放射状に暗文がみこみ部まで施されている。6~8はロクロ整形甕である。5、6は小型の甕であり、7は大型の長胴甕である。ロクロによるナデが明瞭に見られるほかは、カキメなどはみられない。

(時期) 第19図1から甲斐型甕年(甲斐型土器研究グループ1992)Ⅳ期(9世紀前半)と考えられる。ロクロ整形の長胴甕が出土していることからも、9世紀前半としておきたい。

### 2号住居跡

(位置) C-4グリッド

(重複) 3号住居跡を切っている。

(形状) 圓丸方形を呈する。

(床面) カマド付近と住居中央部が硬く踏み固められている。

(施設) 東壁中央部に2号カマド、南壁東端部に1号カマドが構築されている。両者とも、袖石、天井石とともに原位置をとどめているものではなかったが、カマドの上部からはカマドを構築していたと考えられる礫が浮いた状態で出土している。

(遺物) 第19・20図。9は黒色土器の壺である。10は甲斐型の蓋である。縁部に向かってやや内湾しながら開いていく。縁部は内側に向かい屈曲している。外面はロクロケズリ、内面はヘラミガキにより整形されており、放射状の暗文が描かれている。14~21は甲斐型甕である。20以外については、口径がほぼ20cm付近に集中する。

(遺物出土状況) 全体的に、2つのカマド付近に遺物は固まって出土している。特に最も多く出土している甲斐型甕、ロクロ甕については、カマド付近に集中する。またカマド付近から出土しているものについては床面近くから出土しているものが多く、これらの遺物が住居の廃棄年代を示しているものと思われる。器種としては壺の出土が少なく、特に甲斐型壺については、小片が覆土中に散在するのみである。

(時期) 出土遺物より甲斐型甕年Ⅸ期(9世紀後半)と考えられる。

### 3号住居跡

(位置) C-4グリッド

(重複) 2号住居跡に切られている。

(形状) 圓丸方形を呈する。

(床面) 覆土よりはやや硬いものの、全体的にそれほど踏み固めているような硬さではなかった。

床面北西部を中心にして炭化物が多く検出されている。

(施設) 東壁寄りに深さ5cmほど深いビットが検出されている。

(遺物) 第20図。大型の広口有段甕が2個体出土した(23、24)。23は外面、内面ともにハケメを施しているが、特に内面の方が顕著である。口縁部の段には、ハケメの工具

による刺突文がみられる。24は内面外面ともに明瞭なハケメはみられないが、肩部に、ハケ状工具による3段の短い刺突がなされている。口縁部の内面は丁寧に磨きがされている。25はS字壺である。肩部を境として羽状のハケメが施文される。横ハケメは見られない。

(遺物出土状況) 北西部からは大型の壺2個体、小型壺1個体、器台1個体が床面に置いたまま放置されたようまとまって検出されている。北壁際中央にS字壺がまとまって出土している。

(時期) 出土遺物より古墳時代前期、小林健二氏の編年(小林1998、以下小林編年という) IV期と考えられる。

#### 4号住居跡

(位置) B-4, B-5グリッド、C-4, C-5グリッド

(重複) なし

(形状) 隅丸方形を呈する。

(床面) 炉周辺が固くしまっているほかは、さほど踏み固められてはいない。

(施設) 住居中央やや南西寄りに炉が構築されていた。燃焼面は検出されたものの、焼土の堆積は多くはない。各コーナー近くに柱穴と考えられるビットが検出された。(遺物) 第21図。28はS字壺である。内面にはハケメを施した後、ユビオサエを行っている。ヨコハケメはみられない。他には小型壺、小型丸底鉢、高壺の脚部が出土している。

(遺物出土状況) 遷構の落ち込み自体も極めて浅く、遺物も100点ほどしか出土していない。

小型壺は北壁周辺から1個体出土した。S字壺は住居の中心部に集中して出土している。

(時期) 出土遺物より古墳時代前期、小林編年IV期と考えられる。

#### 6号住居跡

(位置) B-5, B-6, C-5, C-6グリッド

(重複) なし

(形状) 隅丸方形を呈する。

(床面) 全体的に床面は硬く踏みしめられているが、南壁周辺だけはやや硬さが弱かった。

(施設) 南西のコーナー付近に長軸121cm、短軸98cm、深さ63cmほどの貯蔵穴が検出された。貯蔵穴付近の覆土中からは焼土がまとまって検出されているが、床面よりも40cmほど高い位置から検出されており、住居に直接ともなるものではない可能性がある。南壁下には深さ10cmほどの周溝が検出されている。

住居中央やや北東寄りからは深さ5cmほどのビットが列状に配置されるように検出されている。住居の西側からはビットは検出されていない。

住居北壁中央部付近にはビットが1基検出されており、そのうち3基は一直線に並んでいる。これらは入り口部の施設に伴うものの可能性がある。

(遺物) 第21図。36は大型の加飾広口壺である。口縁部には2条の垂下隆帯が6単位貼付されている。隆帯のすぐ下の肩部にはボタン状の貼付文が施文されている。外面上についてては全面丁寧なミガキが施されている。37は直口縁壺である。あまり明瞭ではないが内・外面ともにハケメが施されている。胴部下半部には強い被熱痕がある。40は高壺である。壺部は楕形を呈している。器面全面にミガキが施されている。41、42は小型丸底鉢である。外面はヘラケズリ、内面は斜めにミガキが施されている。

(遺物出土状況) 住居北西部からは大型の壺が床面よりやや浮いた状態で出土している(第11図)。3重、4重にも重なるようにして出土しており、散在している小片が数点見られるが、ほぼ全て北西部の狭い範囲に集中して出土していることから、ただ単なる廃棄行為の結果とは考えにくい。

貯蔵穴からは小型丸底鉢が覆土中から、S字壺が底部付近から出土している。

(時期) 出土遺物より古墳時代前期、小林編年IV期と考えられる。

#### 7号住居跡

(位置) D-5, D-6グリッド

(重複) なし

(形状) 隅丸方形を呈する。

(床面) 燃土付近が固く踏み固められている。

(施設) 北壁中央やや東寄りに2号カマド、東壁中央部に1号カマドと、2基カマドが構築されていた。2号カマドは遺存状態が良く袖石、天井石ともによく残存しており、燃焼部中央には支脚石も検出された。燃焼面は床面より約10cmほど掘り下げて構築されており、焼土も良く残っていた。煙道についても焼土がはっきりと残されていた。1号カマドには北側の袖石は残されていたものの、南側の袖石、天井石については残存していないかった。

床面よりやや浮いた位置からは炭化材が大量に検出されており、炭化材は多くのものが中心部から放射状に検出された。住居中心部からは不定形の被熱部が2ヶ所検出されていることからも、焼失住居と考えられる。

(遺物) 第22図。51は須恵器の高台付壺である。底部外面はやや外側に膨らみ、高台部も外側に向かいつけられ

ている。

(遺物出土状況) 全体的に覆土中からの出土が少なく、ほとんどが床面直上からの出土である。环の出土が極めて少ないので特徴で、図示できるものはピットから出土した須恵器の高台付环の1点だけである。2号カマドからは甲斐型壺1個体が出土している。

(時期) 出土遺物より9世紀中頃と考えられる。

#### 8号住居跡

(位置) C-7グリッド

(重複) なし

(形状) 隅丸方形を呈する。

(床面) 全体的に踏み固められているが、特にカマド周辺が固い。

(施設) 東壁中央やや南寄りにカマドが構築されていた。袖石は北側、南側ともに残存していたが天井石については検出されなかった。燃焼面の中央部付近からは支脚石が2つ検出された。幅の細い縁を袖石に使用しているためか、袖石を床面から20cm以上も埋め込んでカマドを構築していた。

南東部のコーナーには、地山を掘り残すことでの構築した階段状の段差が検出された。

(遺物) 第22図。52は甲斐型の环である。外面は口縁部にかなり近い位置までヘラケズリを行った後、底部に近い位置からさらにもう一度ヘラケズリを行っている。底部にもヘラケズリがある。内面にはヘラミガキがなされており、放射状に暗文が描かれている。器形は口縁部に近いところからやや外反している。53は土師器环である。外面にはヘラケズリが施されるが、内面のヘラミガキは施されていない。54は甲斐型の蓋である。ロクロナデにより整形した後、外面の上半部はロクロケズリを行っている。内面はヘラミガキが丁寧に行われており、同心円状の暗文が施されている。

(遺物出土状況) 南東部からカマドにかけて集中して遺物が検出されている。カマドからは燃焼面を覆うように甲斐型壺が出土しており、黒色环なども検出されている。

(時期) 出土遺物より9世紀後半と考えられる。

#### 9号住居跡

(位置) E-8グリッド

(重複) 1号溝に切られている。

(形状) 隅丸方形を呈する。

(床面) 全体的に踏み固められている様子はなかった。

(施設) カマドは検出されなかったものの南西部からは人頭大の縁が6個ほどまとめて出土しており、遺物も

この付近に集中することからも南壁の西側付近にカマドがあった可能性が高い。住居の北側の床面から7~8cmほど浮いた位置から炭化物が大量に検出されている。炭化物の遺存状態は非常に良く、硬くしまっていたため、これらの炭化物はこの住居に伴うものではなく後代の焼ききなどに伴うものと考えていたが、分析の結果平安時代に比定されたことから本造構に伴うものと考えられる。

(遺物) 第23図。58~60は土師器の环である。下半部のヘラケズリは施されておらず、胎土の色調は甲斐型环と比べると白味が強く、赤色粒子も少ない。62~64は甕である。やはり、胎土は青灰、赤色粒子などの混合物が少なく、内・外・外面に施されるハケメも甲斐型壺に比べると幅が広い。65は羽釜である。外面にタテハケメ、内面にはヨコハケメが施されており、甲斐型と製作技法は同じであるが、やはり混合物が少なく、色調の違いなど胎土が甲斐型とは異なる。

(遺物出土状況) 甕・甕は、住居全体から出土している。羽釜は、住居中央部の床面直上や掘り方直上からまとまって出土している。

(時期) 出土遺物より10世紀半ばと考えられる。

#### 10号住居跡

(位置) E-8グリッド

(重複) なし

(形状) 隅丸方形を呈する。

(床面) 全体的に硬く踏みしめられていたが、中央部に近い方では特に硬かった。

(施設) 半分以上が調査区外になっているため、カマドなどは検出できなかった。西壁の南側から南壁、さらに東壁の南側にかけて壁際に周溝がめぐっていた。南壁には壁と周溝を切るように2基のピットが検出された。

(遺物) 第23図。71は甲斐型环である。墨書き器であり、書かれている文字はおそらく「人」であろう。

(遺物出土状況) 遺物は非常に少ない。甲斐型の环が床面直上から、須恵器甕が覆土の中層から出土している。

(時期) 出土遺物より9世紀半ばと考えられる。

## 2. 摂立柱建物跡

#### 1号摂立柱建物跡

(位置) D-7, D-8, E-7, E-8グリッド

(重複) なし

(形状) 長方形

(規模) 1.88m×1.55m

(柱穴等) 柱穴は6本検出されている。ピット個々の詳細は第6表に記載している。それぞれ平面形は円形を呈

し、径は24~42cm、深さは18~28cmを測る。

(遺物) ピット1からは縄文時代晚期の浮線文系土器が出上している。ピット3からは甲斐型壺の破片が出上している。ピット4からは縄文時代晚期の条痕文系土器の小片が出上している。

(時期) 出土遺物からは縄文時代晚期の遺構とともに考えられたが、覆土は平安時代の住居と同じ黒色土であることや、その形状などから平安時代の掘立柱建物跡と考えるのが妥当と考えた。

### 3. 土坑

#### 1号土坑

(位置) C-3グリッド

(重複) なし

(形状) 不規則形

(規模) 長軸80cm、短軸56cm、深さ34cmを測る。

(遺物) 第23図70の須恵器壺が出上している。

(遺物出土状況) 遺構確認面で人頭大ほどの礫が3個検出され、そのすぐ下から須恵器壺が検出された。

(時期) 平安時代

### 4. 溝

#### 1号溝

(位置) 調査区の東側を南北に走る。

(重複) 9号住居跡を切っている。

(形状) 幅42~50cm、深さ12~20cmを測る。

(遺物) 遺物は縄文土器、土師器を中心に出土しているが、ほとんどが流れ込みによるものであろう。

(時期) 平安時代の9号住居跡の廃絶後に作られたので、平安時代以降のものである。

### 5. 遺構外出土遺物

包含層の残りがよくなかったことから、遺構外からの遺物はそれほど多くはない。遺物個々の詳細は第7表に記載した。ここでは特に特筆すべきものだけを取り上げておきたい。

#### 縄文時代

前期~晚期まで幅広く出土しているが、中期の遺物がやや多い。

晚期の土器については、浮線文系と条痕文系の2群に分かれる。浮線文系土器は器種を見ると深鉢、浅鉢となるものの、口縁部の構成は2~3本の平行沈線が描かれているものに限られている。条痕文系土器は小片のものが多く全体の構成が判別できるような資料はないが、

126については条痕文を施文後、「く」の字形の沈線が施文されている。

139は耳飾である。中心と四方に合わせて5つ表面に突起状の貼り付けをしてあったことが確認されたが、そのうち4つはすでにがれてしまっており、1つしか残っていない。

144~148は石鐵である。

#### 古墳時代

131は古墳時代前期のS字壺の口縁部である。腹部は口縁直下の一部しか残存していないが、ヨコハケメは施されていないことから、小林編年IV期と考えられる。

## 第4章 住居跡・出土炭化材の年代と樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条に所在する巣塚遺跡は、舌状台地に挟まれた標高650m前後の小規模な谷の斜面及び平坦地に立地している。本遺跡の発掘調査の結果、古墳時代前期及び平安時代の住居跡や、溝状遺構・土坑などの遺構や、当該期の土器や須恵器などの遺物が確認されている。

本報告では、古墳時代前期及び平安時代の住居跡より出土した炭化材を対象に、放射性炭素年代測定及び樹種同定を行い、遺構の年代や木材利用の検証を行う。

#### 1. 試料

試料は、3・7・9号住居跡から出土した炭化材17点である。以下に、各住居跡の発掘調査時の所見及び試料とした炭化材の出土状況について示す。

##### 3号住居跡

2号住居跡によって住居跡南東部が破壊されており様相は不明であるが、検出された平面プランから方形を呈する住居跡と考えられる。住居跡北側からは、壺・壺・器台などの土器がまとめて出土しており、これらの遺物から4世紀後半の年代が想定されている。また、炭化材は、住居跡北西部に偏在する傾向が認められている。試料とした炭化材は、床面近くから出土した3点(1,613,616)である。

##### 7号住居跡

住居跡平面形は隅丸方形を呈し、出土遺物などから9世紀中頃の遺構と想定されている。炭化材は、住居跡中心部より放射状に出土し、壁際からも確認されている。

試料とした炭化材は、床面直上及び床面付近より採取された3点と、壁際より採取された10点の計13点である。

#### ・9号住居跡

住居跡平面は方形を呈し、10世紀半ばの遺構と想定されている。炭化材は、住居跡北側の覆土中より大量に出土しており、硬質で遺存状況も非常に良好であることが確認されており、後代の炭焼きに由来する可能性も示唆されている。試料とした炭化材は、覆土中より一括採取された試料中より選択された2点である。

これらの炭化材については、放射性炭素年代測定試料を選択・抽出するため、肉眼観察を行った。ただし、試料は、いずれも細片化していたため、本来の形状を推測することは困難であった。上記の各試料の詳細は、分析結果と共に第2表に記す。

## 2. 分析方法

### (1) 放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、 $\beta$ 線計数法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,570年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。曆年較正は、RAD IOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M. Stuiver and PJ Reimer) を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における曆年校正曲線を用いる条件を与え計算を行っている。

### (2)樹種同定

木口(横断面)・柱口(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

## 3. 結果

### (1) 放射性炭素年代測定

結果を表2・3に示す。試料の測定年代(補正年代)値は、3号住居跡より出土した炭化材は約1700~2100年前(BC150~3世紀後半頃)、7号住居跡より出土した炭化材は約1200~1600年前(4世紀後半~8世紀後半)、9号住居跡より出土した炭化材は約900~1200年前(9世紀~11世紀後半)を示した。一方、これらの炭化物の測定年代を RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M. Stuiver and PJ Reimer) を用い曆年校正を行うと、3号住居跡は紀元前4世紀~5世紀前半、7号住居跡は5~9世紀後半、9号住居跡は7世紀後半~13世紀中頃となる。

また、各試料の曆年較正値より相対比の高い値を抽出し、遺構の年代観を比較しても、第3号住居跡では紀元前3世紀~5世紀前半、第7号住居跡では5世紀前半~9世紀後半、第9号住居跡では8世紀後半~13世紀前半の範囲となり、年代幅に大きな変化は認められない。

### (2)樹種同定

結果を表1に示す。炭化材は全て落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔間部は1~2列、孔周囲で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1~20細胞高のものと複合放射組織がある。

## 4. 考察

### (1) 遺構の年代観

発掘調査時の所見による遺構の年代と本分析結果を比較すると、いずれも測定年代(補正年代)値及び曆年較正値は年代幅があり、考古学的な年代観と調和する結果やこれらの年代観と異なる結果が混在している。このような状況については、炭化材が試料であることを考慮すると、用材とした部位の影響や古材等の再利用などの要因が推測される。

### (2) 木材利用

各住居跡より出土した炭化材は、全てクヌギ節であった。クヌギ節は、重硬で強度の高い材質を有する種類である。また、クヌギ節は、国内ではクヌギとアベマキの2種があり、山梨県内ではアベマキは自生していないことから、今回の試料はクヌギの可能性がある。クヌギは、人里周辺の二次林の主構成種であり、現在の遺跡周辺にも生育するとされている(宮脇、1985)。また、3・7号住居跡の炭化材は、いずれも床面や壁際などから出土しており垂木や上屋に由来する住居構築材に由来する可能性がある。したがって、遺跡周辺に形成していた2次林から、強度の高いクヌギを選択的に利用したと考えられる。

ここで、長坂町内に所在する健康村遺跡の平安時代と考えられる住居跡より出土した炭化材の調査結果によれば、クヌギ節や近縁種のコナラ節が多数認められており(パリノ・サーヴェイ株式会社、1994)、本分析結果と調和的である。また、健康村遺跡の分析調査ではクヌギ節以外にスギ、ヒノキ属近似種、ハリギリなどが確認されていることから、クヌギ節以外の木材も利用されていた可能性がある。

一方、9号住居跡は年代測定結果では9~11世紀後半(補正年代値)の年代を示した。そのため、住居跡に伴う炭化材、あるいは、後代の炭焼きに由来する炭化材であるか、本分析結果から明確に示唆することはできない。なお、クヌギ筋は、住居構築材としても強度の高い種類であることから有用材と判断される。一方、薪炭材としても国産材の中でも特に優良な木材とされている(平井、1979)ため、当遺構から出土したクヌギ筋が住居構築材、あるいは炭焼きによる木炭であるか、樹種同定結果からも言及することは難しい。

#### 引用文献

- 平井 信二、1979、木の事典 第2巻、かなえ書房。  
宮澤 昭(編)、1985、日本植生誌 中部、至文堂、604p。  
パリノ・サーヴェイ株式会社、1994、健康村遺跡自然科学分析調査報告、「山梨県北巨摩郡長坂町 健康村遺跡一(仮称) 東京都新宿区立区民健康村建設事業に伴う発掘調査報告書」、新宿区区民健康村遺跡調査会、116~128。

## 第5章 調査の成果と課題

#### 縄文時代

本遺跡からは縄文時代の遺構は確認されなかつたが、前期~晚期に亘るまで遺物は確認されている。各時期の遺物の散布状態をみても、各時期において出土位置に偏りがないことから考えると(第26図)、これらの出土遺物は周辺の台地上などから流れ込んだものと考えてよいであろう。

晚期の土器については、すべて浮線網状文系の範疇でとらえられるものである。器種としては、壺、鉢、浅鉢などが推定できるが、破片資料のため詳細は不明である。口縁部は、口縁に2~3条の平行沈線を巡らす(116~122)。胴部資料は細密条痕文が施されている。条痕文は極めて条幅が1mm程度と極めて細密で条溝も浅い。口縁部と胴部が接合できた資料は無かったが、胎土も近似しており、焼成の具合などもよく似ていることから、これらの資料は口縁下に2~3本の平行沈線を巡らし、胴部に細密条痕文を施す中山分類、Ⅲ群深鉢C類に属するものであろう(中山 1985)。晚期終末期に位置づけられよう。129は条痕文を有するが、他の細密条痕文に比べると条間は一定しておらず条溝は深い。植物の枝葉を束ねたものを工具としたものと考えられる。小破片のため詳細な検討はできないが、中山編年Ⅳ期、弥生時代初頭に位置づけられる可能性がある。

本遺跡から台地を一つ抉り西側に展開する長坂上条遺

跡においても浮線網状文系の土器がまとまって出土している。長坂上条遺跡は小さな舌状台地上に位置しており、本遺跡とも地形が良く似ていることから、本遺跡の周辺にも長坂上条遺跡と同じように晚期の集落が展開している可能性は高い。また長坂町中丸に所在する健康村遺跡からは、本遺跡と併行すると考えられる水I式の土器群が出土している。このように長坂町からは晚期終末期の資料が比較的豊富に出土している。しかし弥生時代初頭の資料が少ないため、縄文時代から弥生時代にかけての社会の動態は未だ捉えていない。今後の資料の増加を待つとともに、これら縄文時代晚期終末の資料を、縄文から弥生へという大きな社会の変化のなかで、再度その歴史的意義を検討していくなくてはならないであろう。

#### 古墳時代

本遺跡から出土した古墳時代の遺構は、3号、4号、6号堅穴住居跡の3軒である。3軒とも小林編年Ⅳ期に比定されることから、同時存在と考えてよいだろう。それぞれの床面積を比較すると、3号住13.1m<sup>2</sup>、4号住15.9m<sup>2</sup>、6号住75.9m<sup>2</sup>となり、6号住居が圧倒的に大きいことが分かる。県内の古墳時代前期の住居跡サイズについては、平均で長軸5.64m、短軸5.11m、床面積で27.7m<sup>2</sup>を測る(宮澤1999)。床面積が20~30m<sup>2</sup>のものが圧倒的に多く、該期の一般的な住居の大きさといえよう。本遺跡の住居構成は、この一般的な大きさの住居は検出されておらず、小規模の住居跡2軒と大型住居跡1軒の組み合わせとなっていた。

本遺跡からは、小林編年Ⅲ期以前と考えられる資料は遺構外からも検出していないことから、Ⅳ期になって集落が営まれはじめたと考えられる。八ヶ岳南麓地域においては、Ⅰ~Ⅲ期の資料は非常に少なく、唯一柳原A遺跡3号住がⅢ期の住居と考えられるものであり、Ⅰ、Ⅱ期の資料は現在のところ確認されていない。住居跡の検出例は少ないものの長坂町北村遺跡からはⅢ期の方形周溝墓が発見されていることから、周辺にはⅢ期以前の集落が存在しているはずである。しかし本遺跡を含め長坂町龍角西遺跡、同酒呑場遺跡など、Ⅳ期から集落が営まれる例が極めて多いのが実状である。一方広く北巨摩地域を見渡せば、七里岩台地の先端にあたる坂井南遺跡や藤井平の後田遺跡などはⅠ期から集落が営まれていたことが確認されており、塩川や釜無川の流域や七里岩台地の先端部では古墳時代の初めから集落が確実に展開していたことが分かる。

八ヶ岳南麓地域においては北村遺跡の存在などからⅢ期以前にも人々が生活をしていたことは間違いないが、

これまでの調査事例からはⅣ期になり遺跡数が一気に増加していく傾向は捉えられる。東日本全体を通してみても、Ⅲ期からⅣ期の間には大きな社会的西期があったと考えられている。八ヶ岳南麓地域においてもこの時期に遺跡数の増加を促した大きな西期があったと考えてよいであろう。遺跡数の増加の背景については、今後八ヶ岳南麓地域ばかりではなく汎東日本の視点から検討をしていく必要があろう。

## 平安時代

平安時代の遺構は住居跡6軒、掘立柱建物跡1軒、土坑1基である。ピット群については、縄文土器が出土しているものもあり、時期の判別は難しい。しかし該期の住居跡の覆土に良く似た黒色土であったので、ピット群についても平安時代の所産であると考えておきたい。

住居跡6軒の時期的な変遷について考えてみたい。9世紀の前半と考えられるのが1号住居跡、9世紀半ばと考えられるのが7号住居跡と10号住居跡である。9世紀後半と考えられるのが2号住居跡と8号住居跡である。9号住居跡は10世紀半ばの所産と考えられる。住居の時期とカマドの配置を考えると、

9世紀半ば…7号住居跡 カマド北壁、東壁

9世紀後半…2号住居跡 カマド東壁、南壁

8号住居跡 カマド東壁

10世紀半ば…9号住居跡 カマド南壁（？）

というようになり、時期が下るにつれて北壁から東壁へ、そして南壁へというようにカマドの位置が変化していく様子が分かる。

次に各住居から出土している土器の種別の割合をみてみると。まず甲斐型壺と黒色土器の壺を比べてみると、1号住、2号住、7号住、9号住では黒色土器のほうが多く出土している。重量で比較すると、特に1号住では甲斐型壺16gに対し黒色壺258g、2号住では甲斐型壺25gに対し黒色壺296gと、圧倒的に黒色壺の出土量が多い。一方8号住、10号住は黒色壺に比べ甲斐型壺が多く出土している。10号住では黒色壺が1点も出土しておらず、8号住においてもその差は明瞭である。土師器壺についても住居ごとに出土量の差はある。古い時期には出土量は少なく、甲斐型土器が消滅していく10世紀半ばの9号住では甲斐型壺18g、黒色壺31gに対し、土師器壺584gと圧倒的な出土量になる。このことから土師器壺の出土量の変化は、甲斐型土器の消滅に伴う、時期的な変化であるといえる。しかし、9世紀後半に比定される2号住は黒色土器が多く、同じく9世紀後半の8号住では甲斐型壺が多いように、同じ時期の住居において

その割合は住居ごとに異なっていることから、甲斐型土器と黒色土器の出土量の違いは時期の違いによるものではない。両者の出土量の違いは何に起因するもののかは分かっていない。黒色土器は長野県に分布の中心を持つ土器であり、県内では北巨摩地域に集中して出土する傾向がある。長野県との密接な関係を示すものとして考えられており（渡邊 2000）、平安時代の北巨摩地域を考えるうえでは重要な遺物である。遺跡や住居によってさまざまな出土状況があることから、今後遺跡ごとに黒色土器の出土状況を詳細に分析していくことが必要であろう。

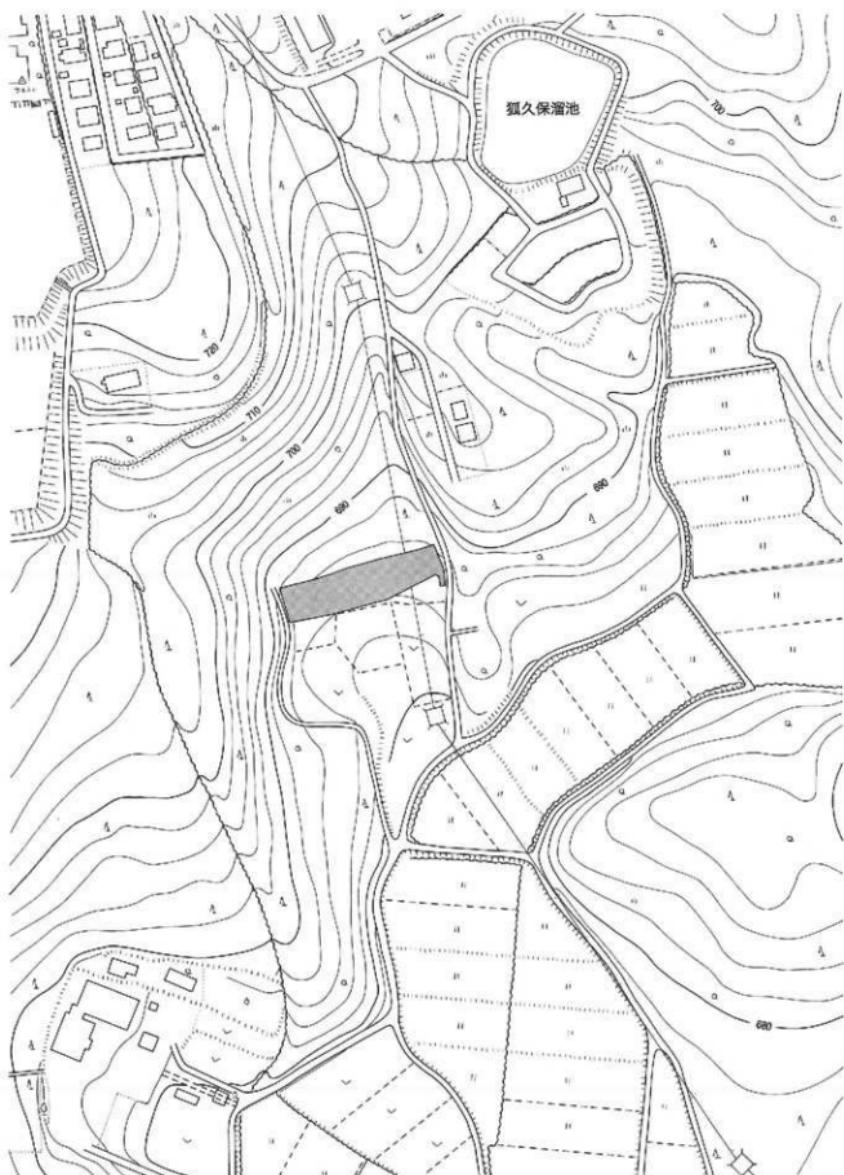
前述したように甲斐型編年Ⅶ期に位置づけられる1号住からは、黒色土器が出土している。しかしこれまで北巨摩地域では一番古いもので茲崎市宮ノ前遺跡のⅤ期の住居跡から黒色土器が出土しており、Ⅷ期では検出されておらず、Ⅸ期から黒色土器が本格的に導入されてくると考えられてきた（渡邊 2000）。しかし今回1号住跡から黒色土器が出土したことで、Ⅵ期に移入されたはじめた黒色土器はその後も途切れることなく移入されていたことが分かった。しかし未だⅨ期での検出例はこの1遺構のみであることから、本格的に導入されるのはⅩ期になってからであったのであろう。

## 参考文献

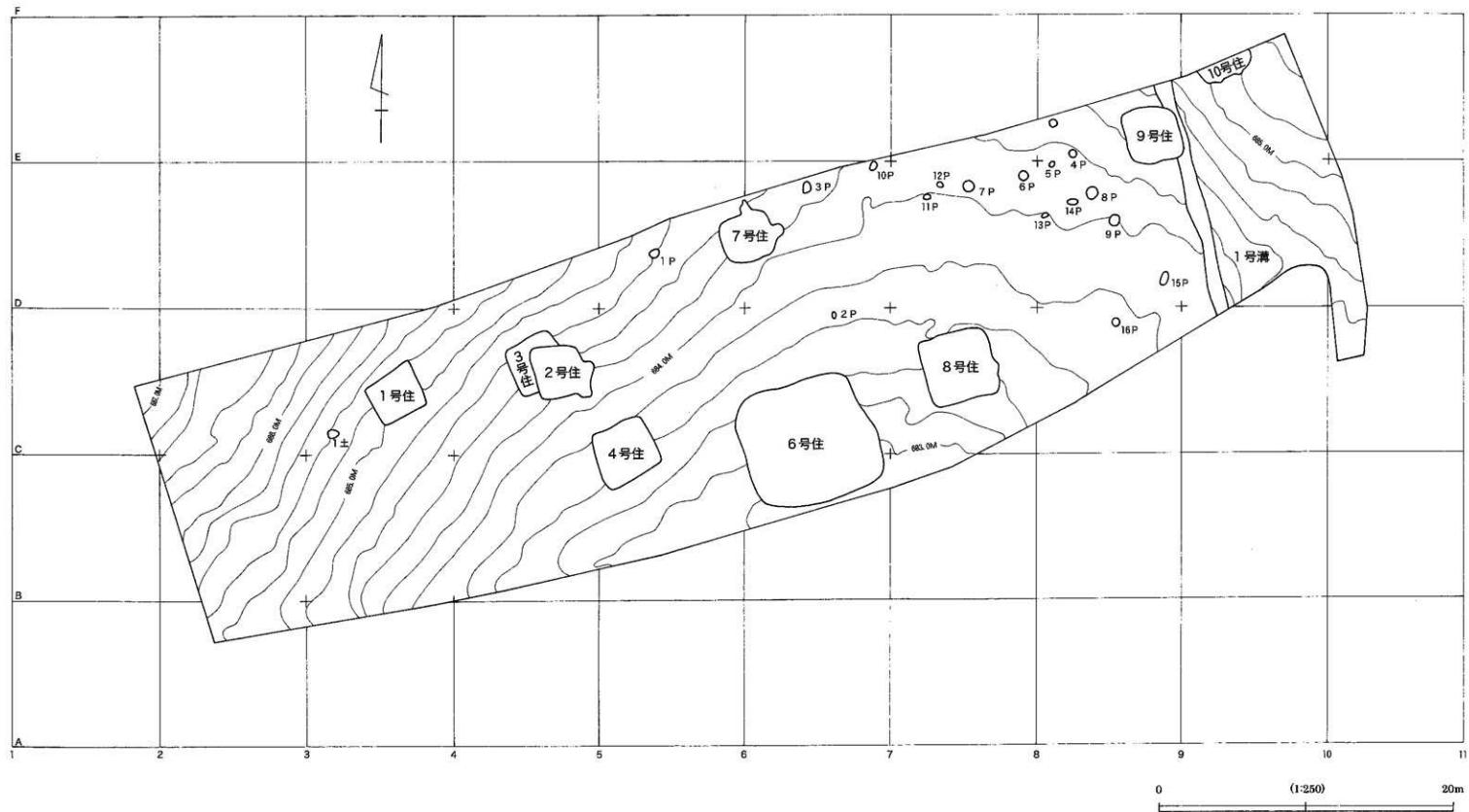
- 大山裕・竹下次作・井出佐重 1941 「山梨県日野春村 長坂上条遺跡発掘調査報告」『歴史学雑誌』13-3 史前学会
- 甲斐型土器研究グループ 1992 「甲斐型土器 一その編年と年代」山梨県考古学協会
- 小林健二 1998 「甲斐における古式土師器の成立—3・4世紀の土器編年と墳墓—」『事修考古学』第7号 専修大学考古学部
- 小宮山隆 1996 「北村遺跡」長坂町教育委員会
- 小林青樹 1994 「第3節 縄文時代晚期終末の土器群について」『越中村遺跡』新宿区区民健康遺跡調査団
- 中山航二 1985 「甲斐における弥生文化の成立」『研究紀要』2 山梨県立考古博物館 山梨県埋蔵文化財センター
- 平野修・梅原功一 1992 「宮ノ前遺跡」茲崎市遺跡調査会
- 保坂康夫 1988 「山梨県下における古代前半のクロコ彫形土師器甕をめぐって」『山梨県考古学学会誌』第2号 山梨県考古学協会
- 宮澤公雄 1999 「古墳時代の住居と糞窓」『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物） 山梨県
- 2000 「糞窓遺跡 第1次発掘調査報告書」糞窓遺跡発掘調査団
- 村松佳幸 2001 「糞窓遺跡 第1次発掘調査報告書」長坂町教育委員会
- 2001 「龍角西遺跡」長坂町教育委員会
- 米田明訓 1986 「拂坪遺跡」山梨県教育委員会
- 渡邊泰彦 2000 「北巨摩地域における黒色土器の様相」「八ヶ岳考古」平成11年度年報 北巨摩市町村文化財担当者会



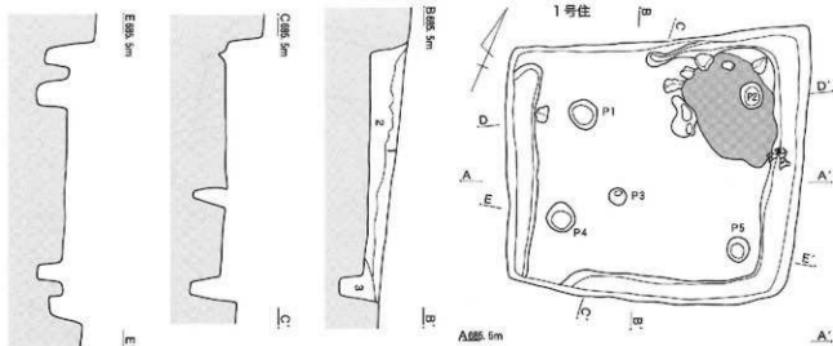
第1図 長坂町遺跡分布図



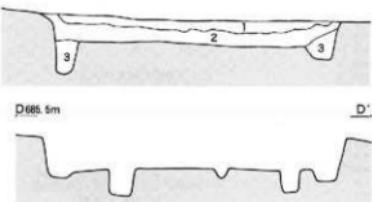
第2図 調査区配置図 (1/2500)



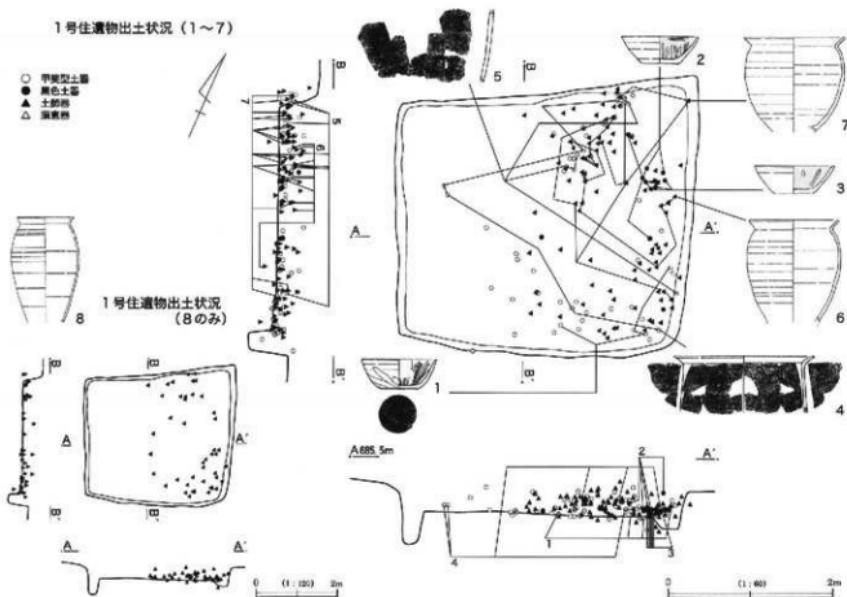
第3図 藤沢区全休図 (1/250)



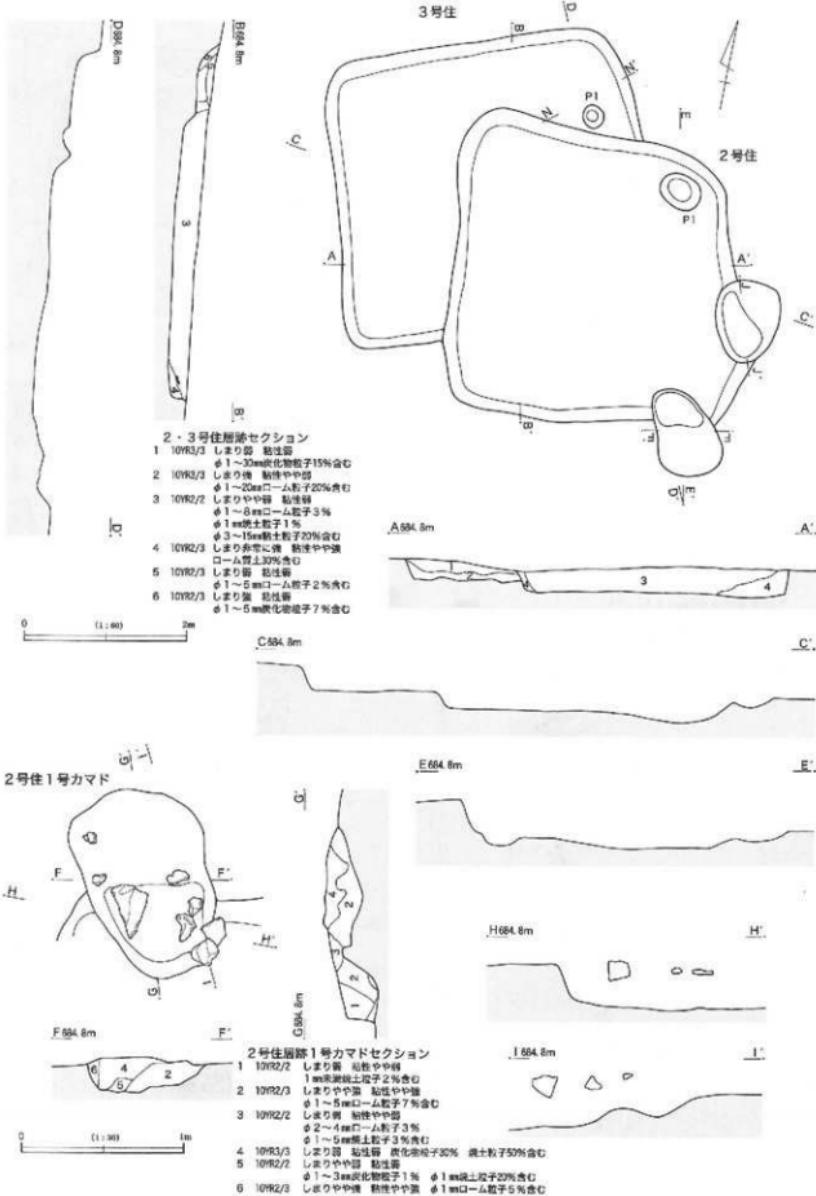
- 1号住跡セクション  
 1 10R2/1 しまりやや質 粘性やや強 φ1~10mmローム粒子2%  
 2 10R1.7/1 しまりやや質 粘性やや強 φ1~5mmローム粒子5%  
 3 10R2/2 しまり質 粘性強 φ1~5mmローム粒子1%含む



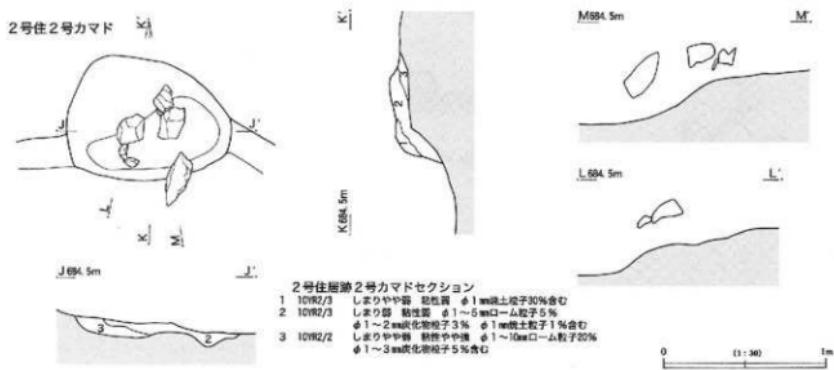
#### 1号住遺物出土状況 (1~7)



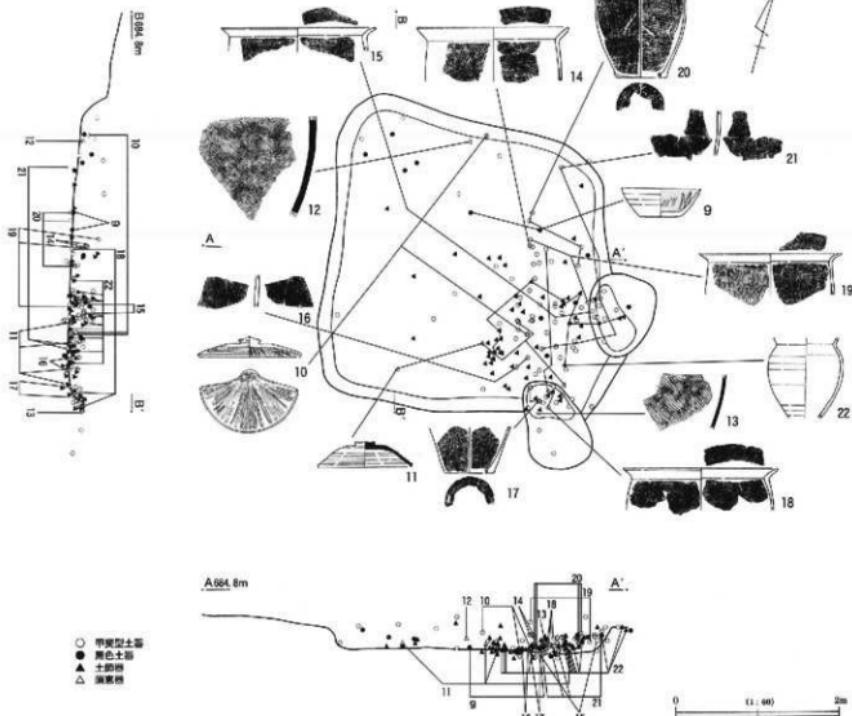
第4図 1号住跡・1号住遺物出土状況



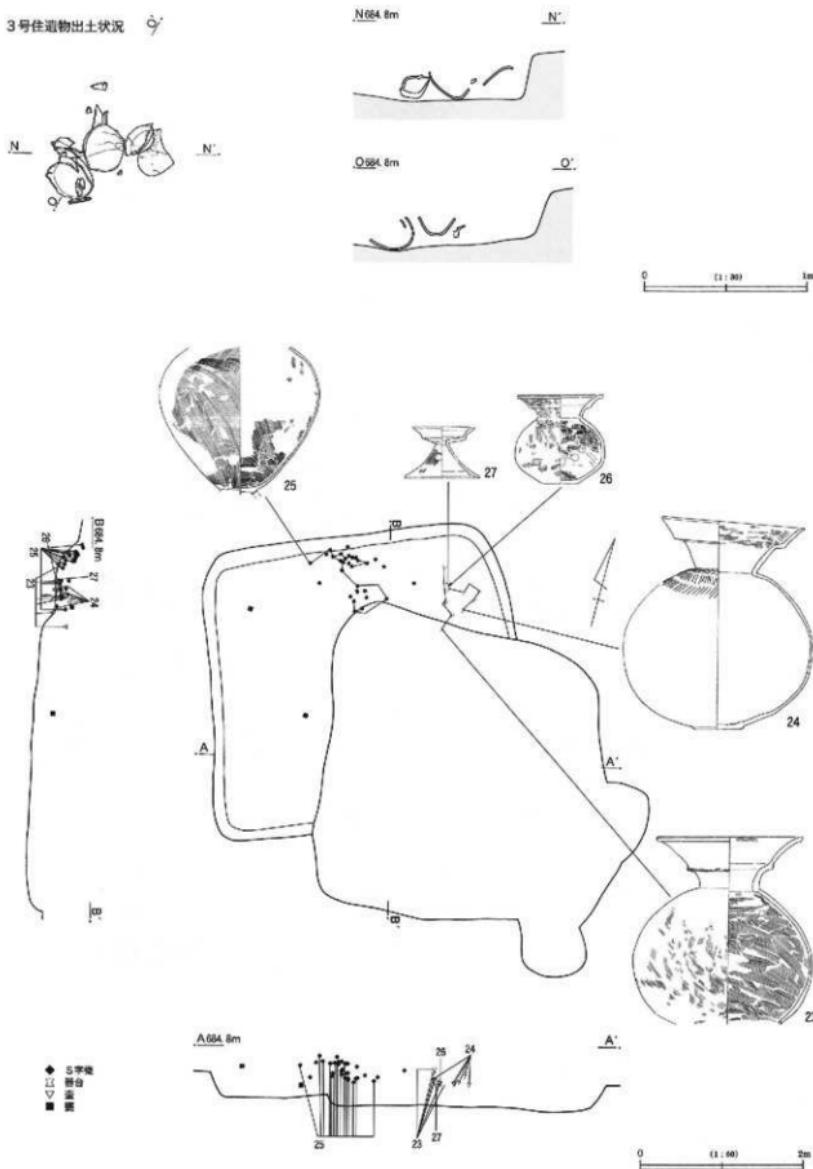
第5図 2・3号住居跡・2号住1号カマド



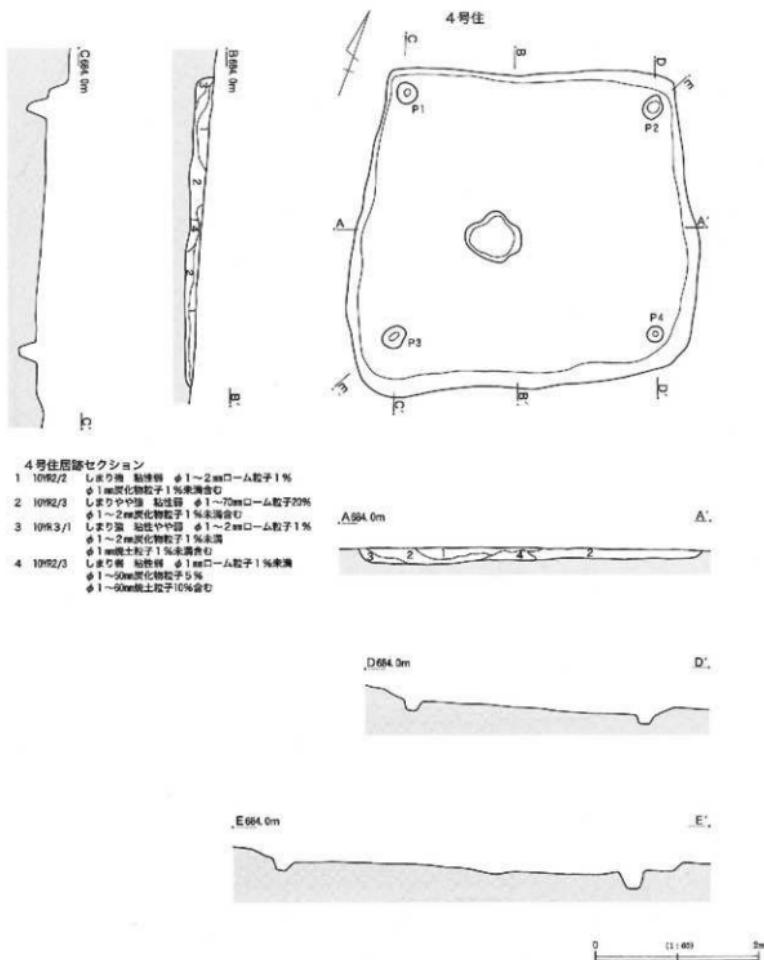
2号住遺物出土状況



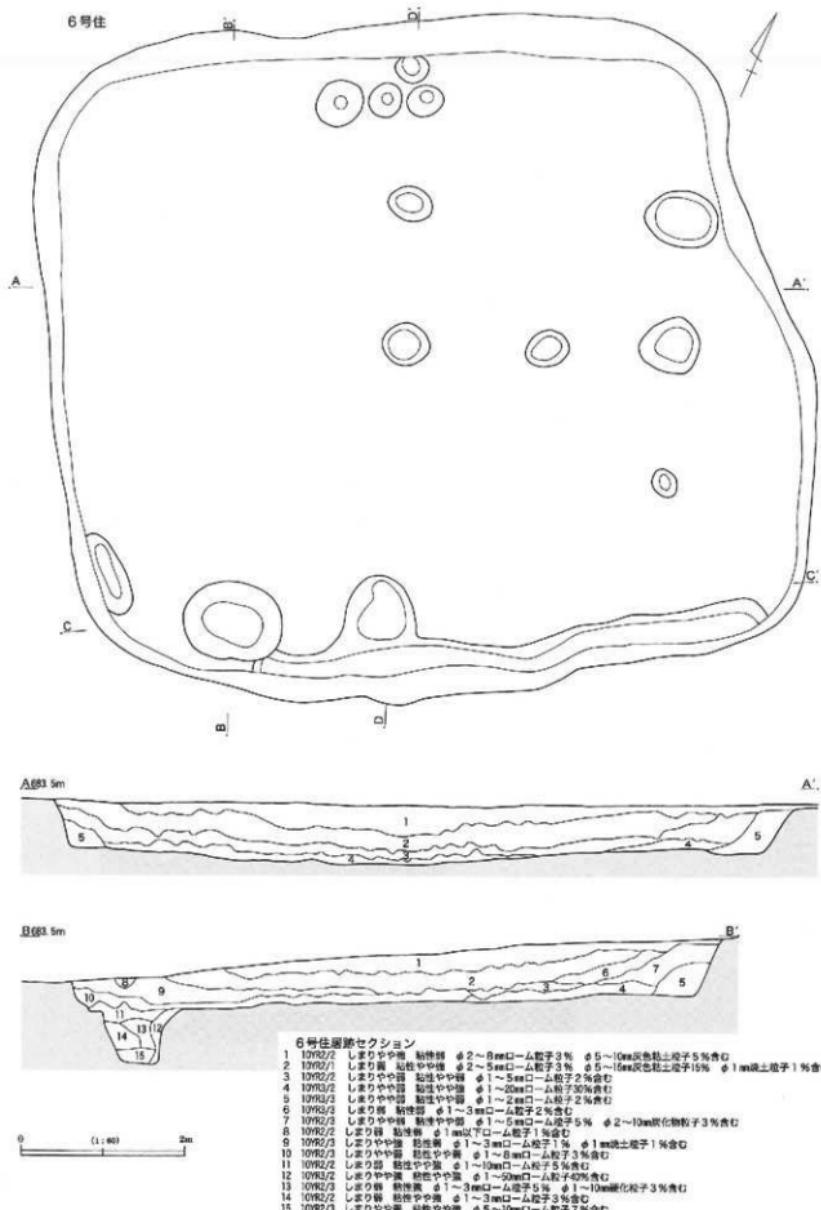
第6図 2号住 2号カマド・2号住遺物出土状況



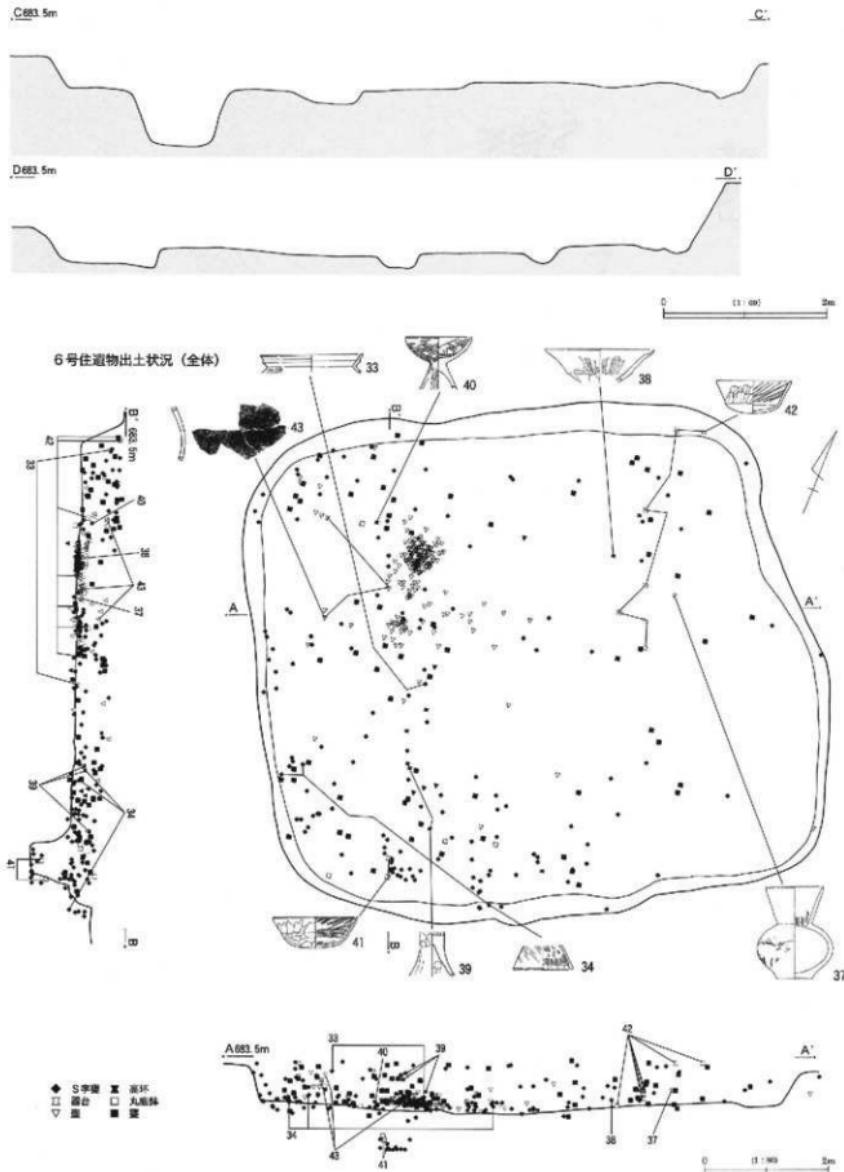
第7図 3号住遺物出土状況



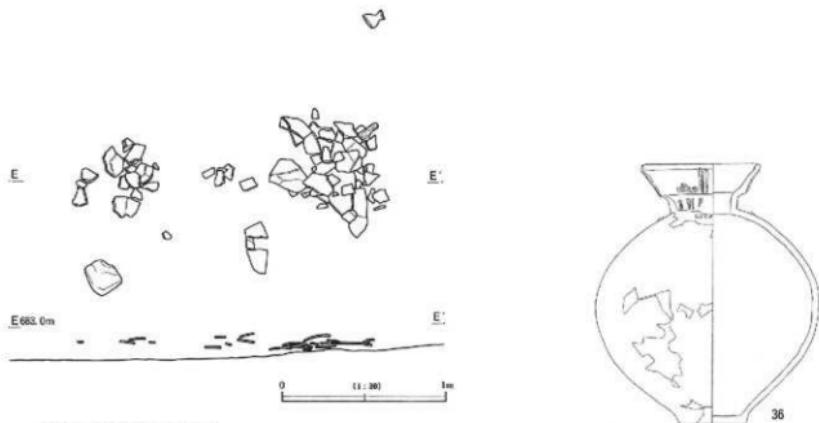
第8図 4号住居跡



第9図 6号住居跡



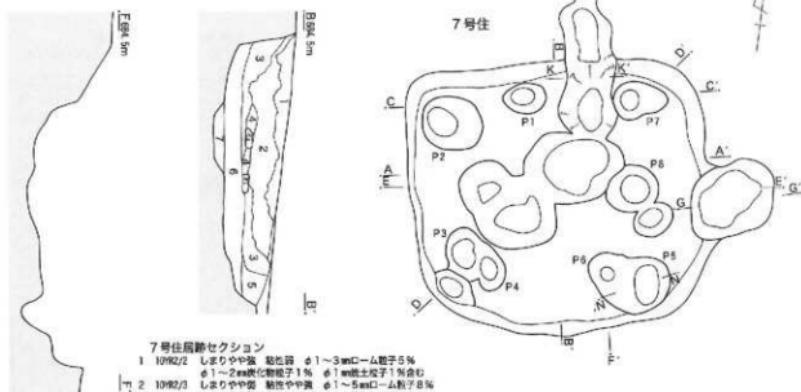
第10図 6号住遺物出土状況①



6号住遺物出土状況(36のみ)



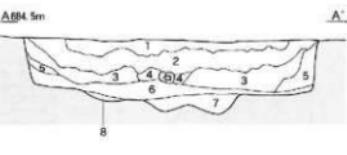
第11図 6号住遺物出土状況②



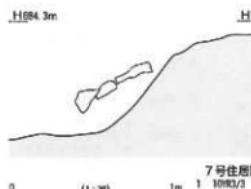
7号住層断面セグション

- 1 1092/2 しまりやう層 粘土岩  $\phi 1\sim3$  mmコーム粒子 5%  
+ 1~2 mm炭化物粒子 1%  $\phi 1$  mm粘土粒子 1%含む
- 2 1092/2 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim3$  mmコーム粒子 5%  
+ 1 mm炭化物粒子 1%  $\phi 1\sim3$  mm粘土粒子 3%含む
- 3 1092/2 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim3$  mmコーム粒子 5%  
+ 1 mm炭化物粒子 5%  $\phi 1\sim3$  mm粘土粒子 3%含む
- 4 1093/3 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim5$  mmコーム粒子 5%  
+ 3~10 mm炭化物粒子 7%  $\phi 1\sim10$  mm粘土粒子 5%含む
- 5 1093/3 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim5$  mmコーム粒子 1%  
+ 2~5 mm粘土粒子 3%含む
- 6 1094/4 しまりやう層 黏土や砂岩  $\phi 1\sim5$  mmコーム粒子 10%  
+ 1~3 mm白色炭化物粒子 5%含む
- 7 1093/3 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim3$  mm  
炭化物粒子 2%含む
- 8 1093/3 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim5$  mm炭化物粒子 5%含む

7号住1号カマド



H-E

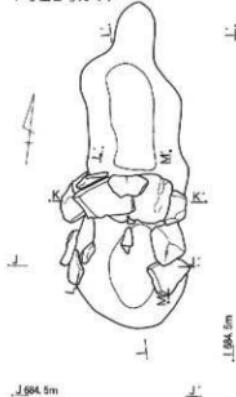


7号住階段1号カマドセグション

- 1 1093/3 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim2$  mm粘土粒子 1%含む
- 2 1093/3 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim2$  mmコーム粒子 1%  $\phi 1$  mm粘土粒子 2%含む
- 3 1093/3 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim2$  mmコーム粒子 1%  $\phi 1$  mm粘土粒子 80%含む
- 4 1094/4 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim2$  mmコーム粒子 1%  $\phi 1$  mm粘土粒子 80%含む
- 5 7.593/3 しまりやう層 粘土岩  $\phi 1\sim5$  mmコーム粒子 5%  $\phi 1\sim2$  mm炭化物粒子 1%  $\phi 1$  mm粘土粒子 1%含む
- 6 1092/3 しまりやう層 粘土岩  $\phi 1\sim3$  mmコーム粒子 5%  $\phi 1\sim2$  mm炭化物粒子 1%  $\phi 1$  mm粘土粒子 1%含む
- 7 1092/3 しまりやう層 粘土岩  $\phi 1\sim5$  mmコーム粒子 3%含む
- 8 1092/2 しまりやう層 粘土や砂岩  $\phi 1\sim5$  mmコーム粒子 5%  $\phi 1$  mm炭化物粒子 1%  $\phi 1\sim3$  mm粘土粒子 3%含む

第12図 7号住階層・7号住1号カマド

7号住2号カマド



K684.5m

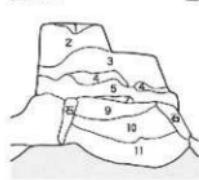
K'

L684.5m

L'

M684.5m

M'



7号住居跡2号カマドセクション

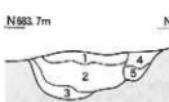
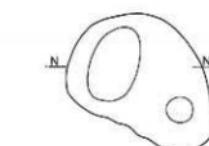
- 1 10982/2 しまりやや硬 粘性非常に弱  $\phi 1\text{mm}$ 以下ローム粒子5%含む
- 2 10983/2 しまりやや強 粘性やや強  $\phi 1\text{mm}$ ローム粒子3%  $\phi 1\text{mm}$ 以上  
粘土質含む
- 3 10983/3 しまりやや強 粘性者  $\phi 5\sim10\text{mm}$ ローム粒子30%  $\phi 1\text{mm}$ 以上  
粘土質含む
- 4 7.51083/4 しまりやや硬 粘性やや強  $\phi 1\sim5\text{mm}$ ローム粒子20%含む
- 5 10983/3 しまりやや強 粘性が弱い  $\phi 1\sim5\text{mm}$ ローム粒子5%  $\phi 1\sim3\text{mm}$   
粘土質粒子8%含む
- 6 10984/4 しまりやや硬 粘性やや強  $\phi 1\sim2\text{mm}$ ローム粒子2%含む
- 7 2.51094/4 しまりやや強 粘性者  $\phi 1\sim10\text{mm}$ 粘土質粒子30%含む
- 8 7.51094/4 レンガ状の構造物 粘性やや強 粘土質含む  $\phi 1\text{mm}$ 以上含む
- 9 10984/4 しまりやや強 粘性やや強  $\phi 1\sim10\text{mm}$ 粘土質40%含む
- 10 10984/4 しまりやや強 粘性やや強  $\phi 1\sim5\text{mm}$ ローム粒子15%  
 $\phi 1\sim5\text{mm}$ 以上含む5%含む
- 11 7.51094/4 しまりやや弱 粘性弱  $\phi 10\sim20\text{mm}$ 粘土質30%含む
- 12 7.51094/5 しまりやや弱 粘性弱  $\phi 10\text{mm}$ 以上含む50%含む

0 (1:20) 1m

7号住ビット5・6



N683.7m

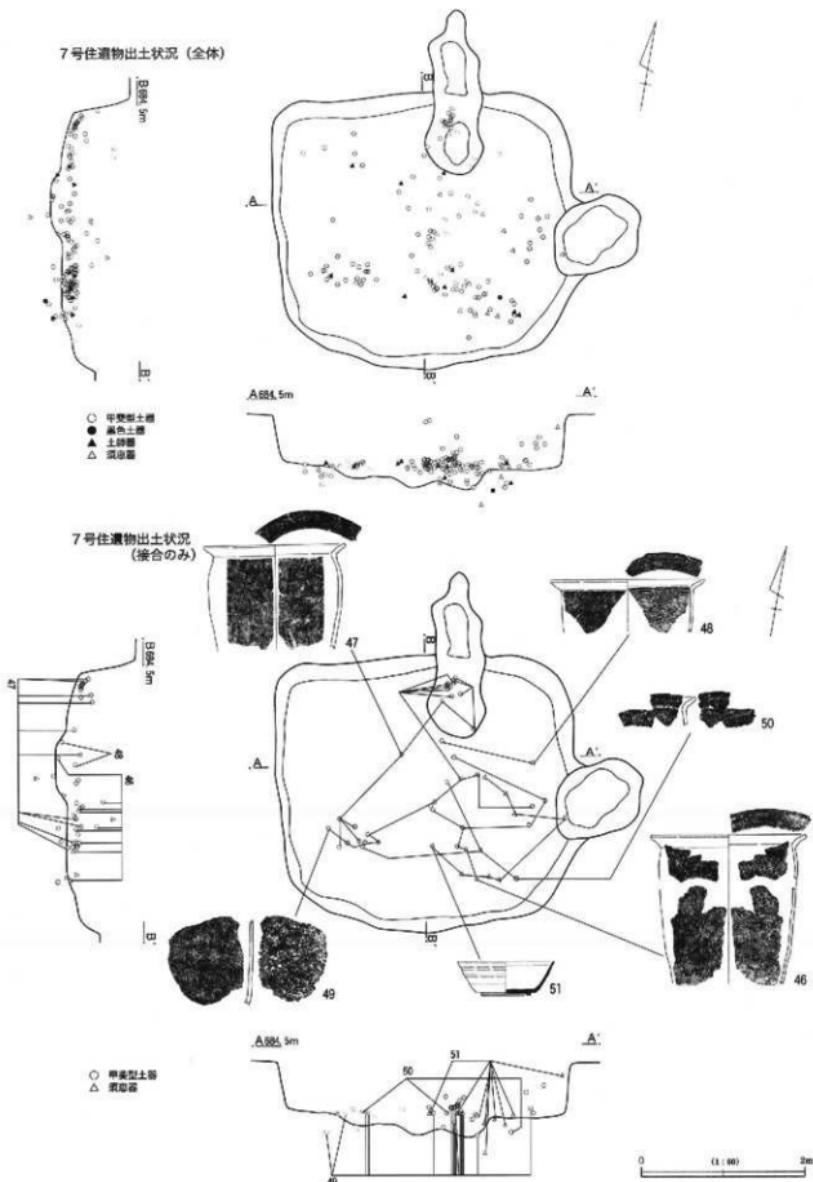


- 1 7.5103/3 しまりやや強 粘性やや強  
 $\phi 1\sim8\text{mm}$ 粘土質粒子8%含む
- 2 1093/3 しまりやや強 粘性やや強  
 $\phi 1\sim3\text{mm}$ ローム粒子5%  
 $\phi 1\sim8\text{mm}$ 粘土質2%含む
- 3 1093/2 しまりやや強 粘性強  
 $\phi 1\sim3\text{mm}$ ローム粒子10%  
 $\phi 1\sim2\text{mm}$ 粘土質7%含む
- 4 1093/3 しまりやや強 粘性やや強  
 $\phi 1\sim2\text{mm}$ ローム粒子2%  
 $\phi 1\sim3\text{mm}$ 粘土質5%含む
- 5 1093/3 しまりやや強 粘性やや強  
 $\phi 1\text{mm}$ 以上含む1%含む

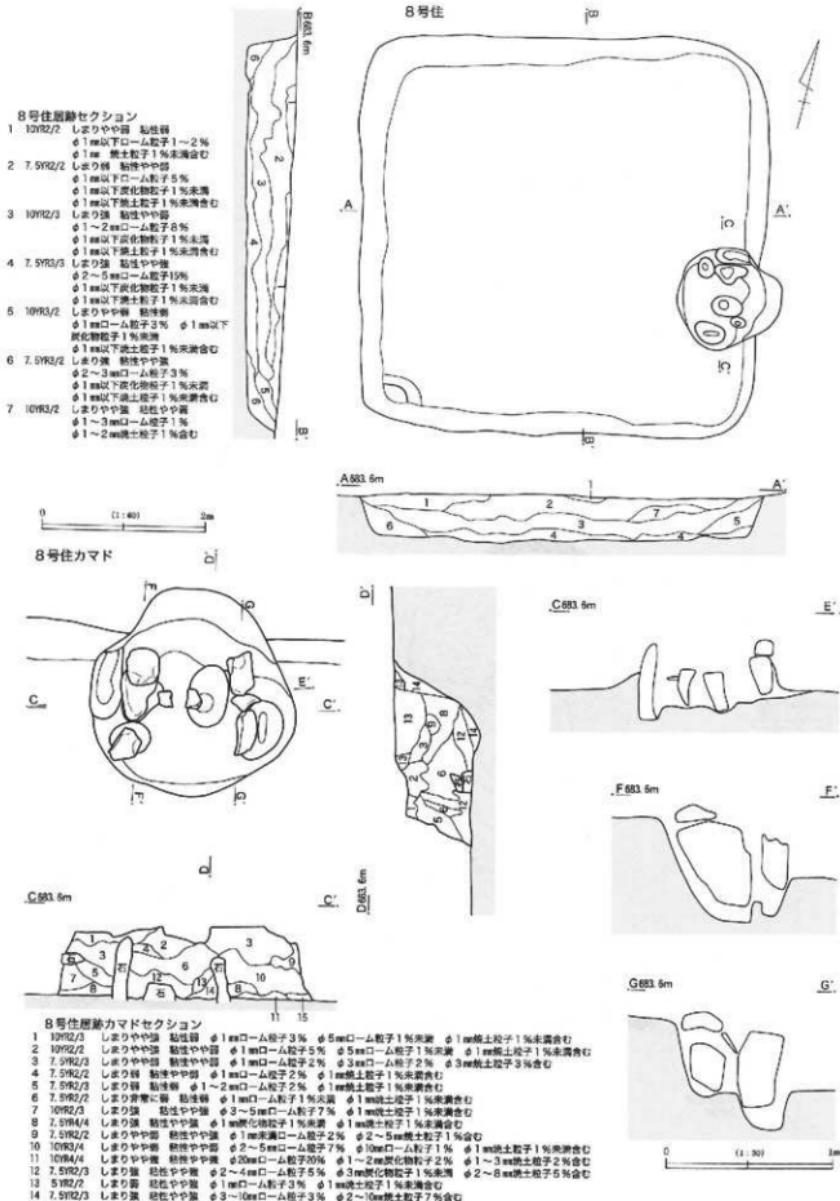
0 (1:20) 1m

第13図 7号住2号カマド・炭化物出土状況、ピット5・6

7号住遺物出土状況（全体）

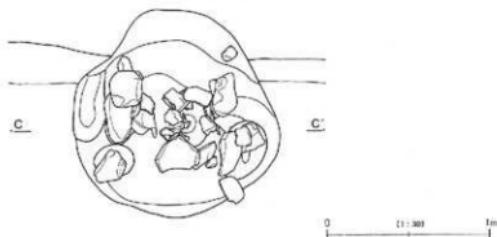


第14図 7号住遺物出土状況（上全体、下接合のみ）

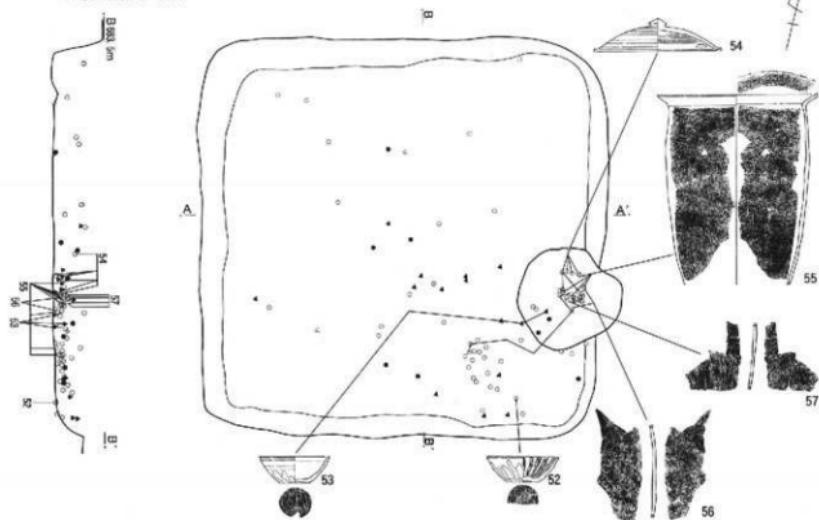


第15図 8号住居跡・8号住カマド

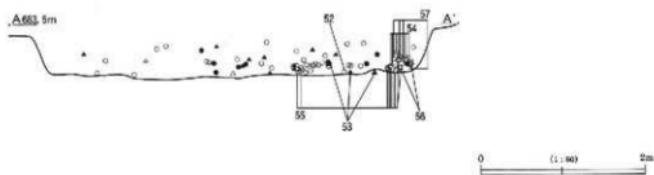
8号住居マダ遺物出土状況



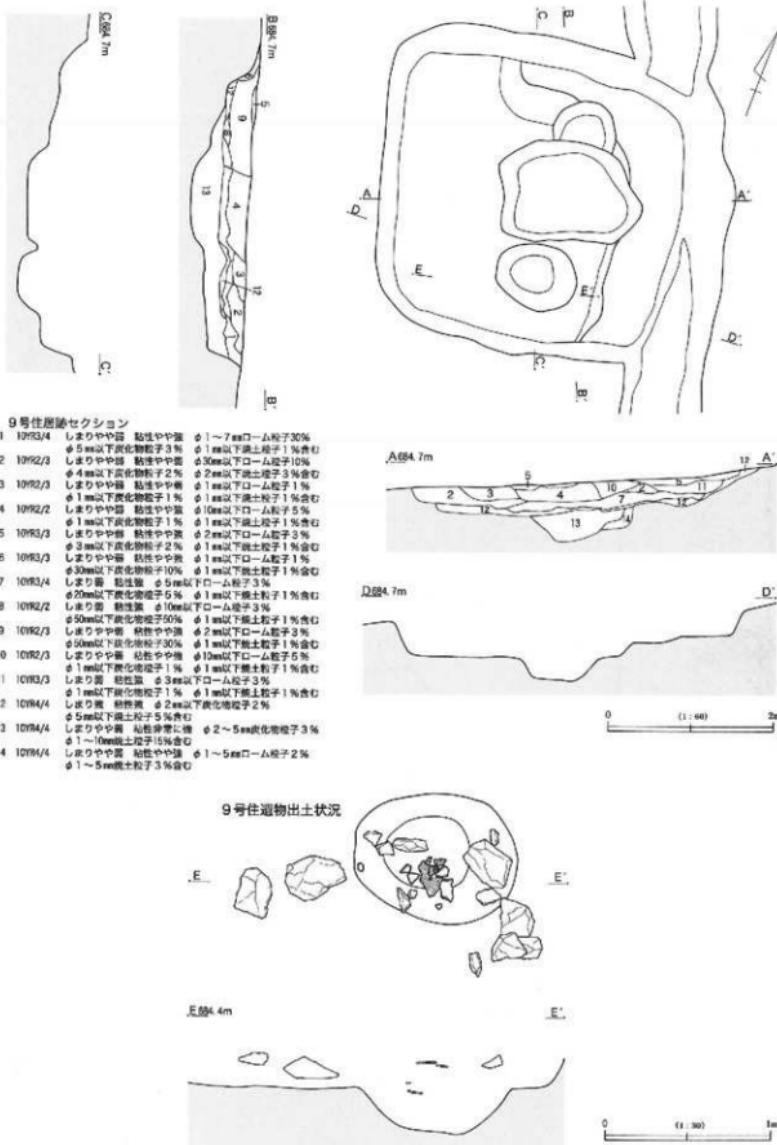
8号住道物出土状況



- 平面図土壤
- 土色土壤
- ▲ 土器器
- △ 滴落物

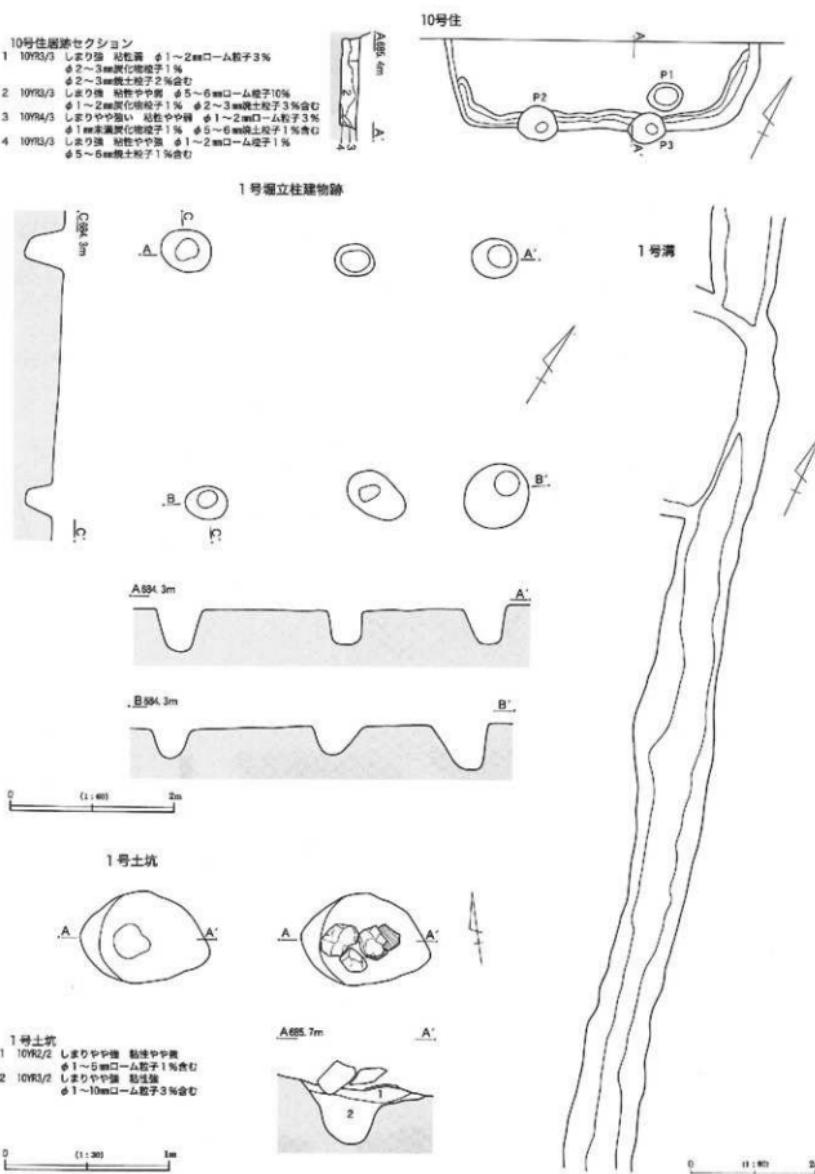


第16図 8号住道物出土状況



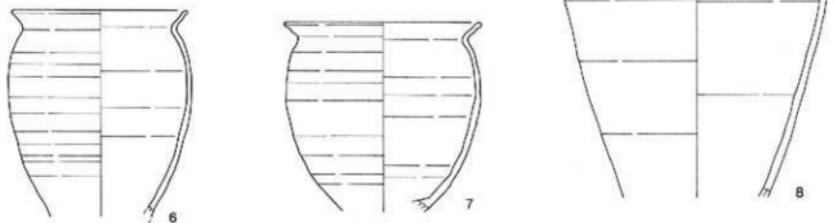
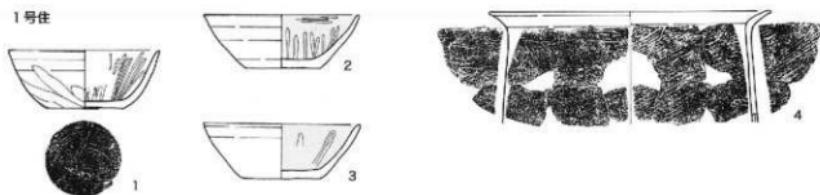
第17図 9号住居跡・9号住造物出土状況

- 10号住居跡セクション  
 1 10YR2/3 しまりや強 粘土質  $\phi 1\sim2$  mmコーム粒子3%  
      $\phi 2\sim3$  mm炭化物粒子1%  
      $\phi 2\sim3$  mm陶土粒子2%含む  
 2 10YR4/3 リンクル強 粘土質  $\phi 1\sim5\sim6$  mmコーム粒子10%  
      $\phi 1\sim3$  mm炭化物粒子1%  $\phi 2\sim3$  mm陶土粒子3%含む  
 3 10YR4/3 しまりやや強 粘土質やや硬  $\phi 1\sim2$  mmコーム粒子3%  
      $\phi 1$  mm炭化物粒子1%  $\phi 5\sim6$  mm陶土粒子1%含む  
 4 10YR2/3 しまりや強 粘土質やや硬  $\phi 1\sim2$  mmコーム粒子1%  
      $\phi 5\sim6$  mm陶土粒子1%含む

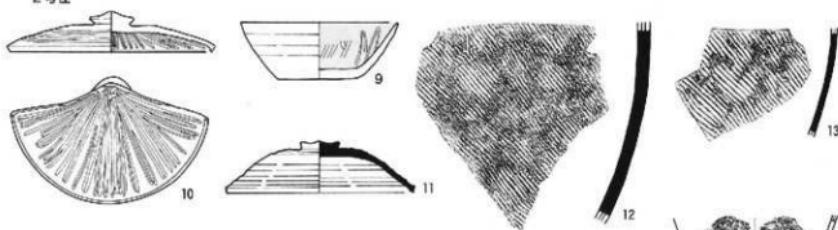


第18図 10号住居跡・1号掘立柱建物跡・1号土坑・1号溝

## 1号住

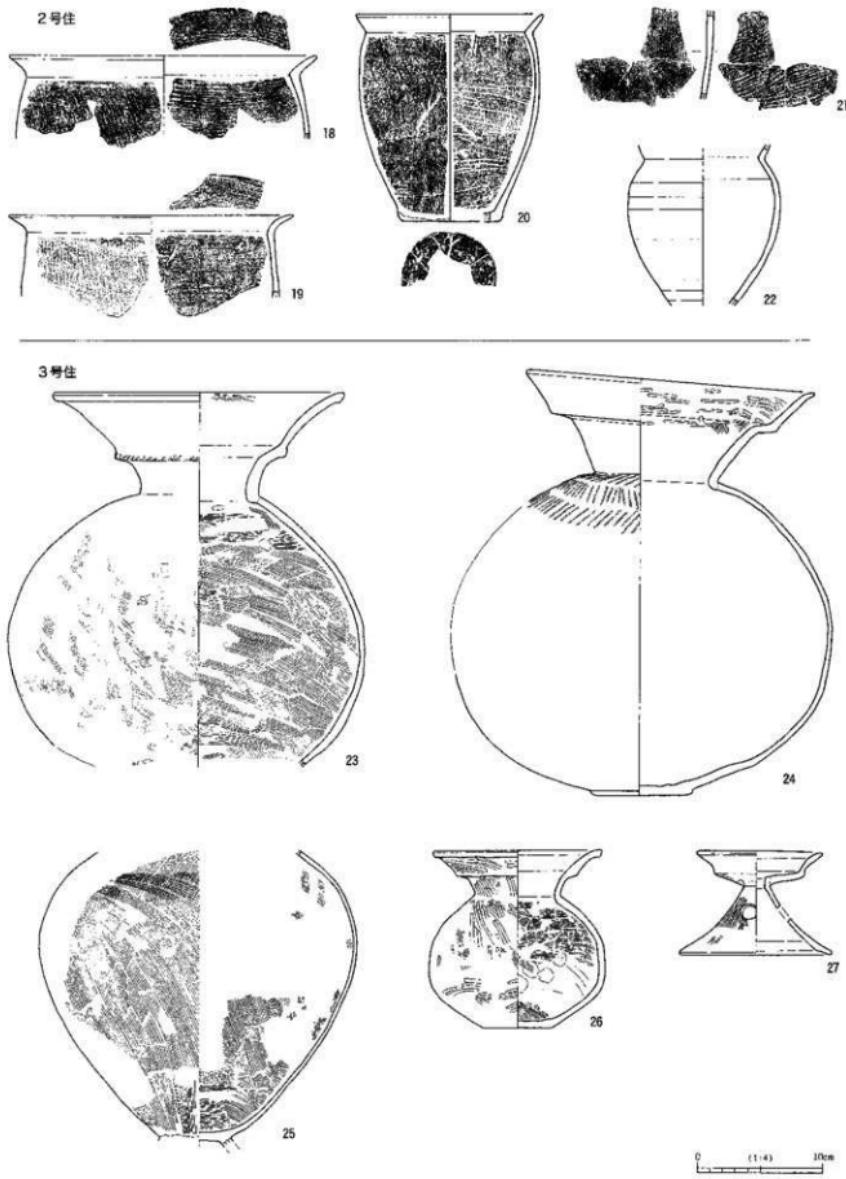


## 2号住

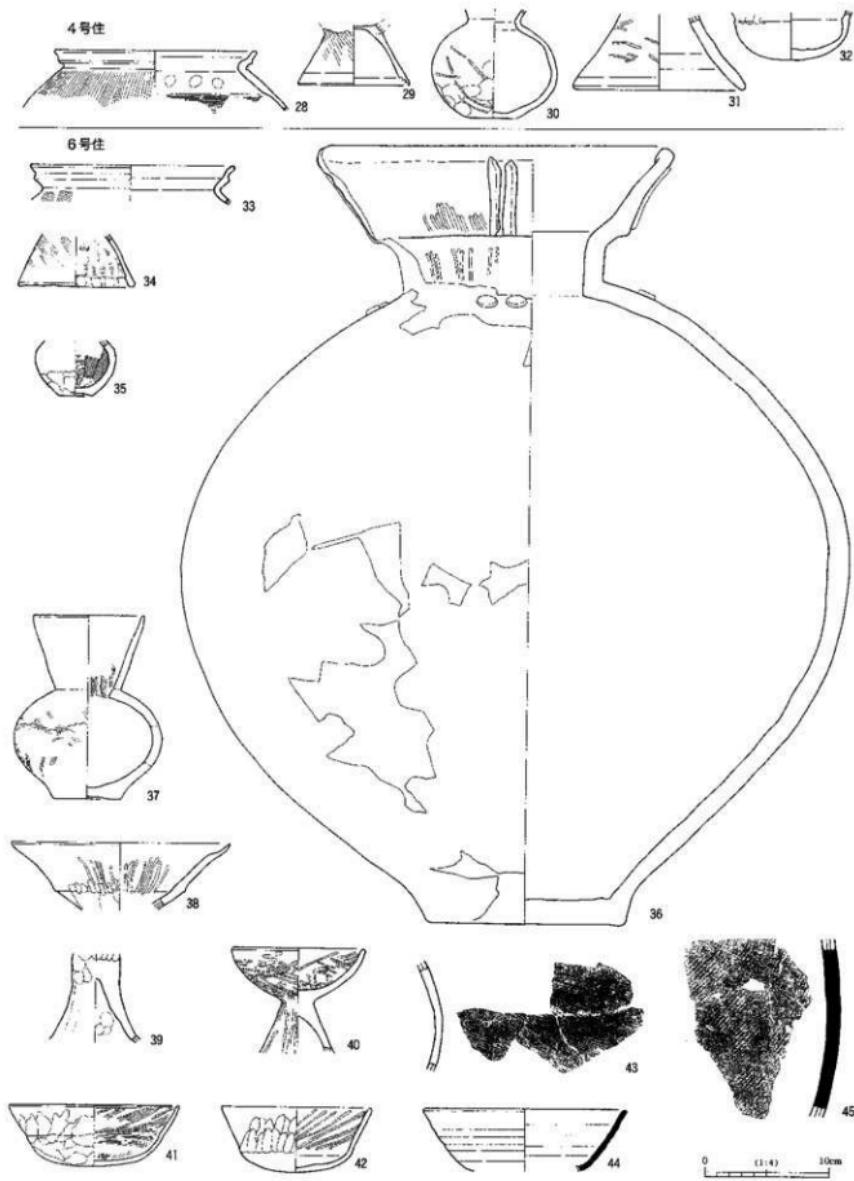


0 (1-4) 10cm

第19圖 1号住居跡・2号住居跡出土遺物

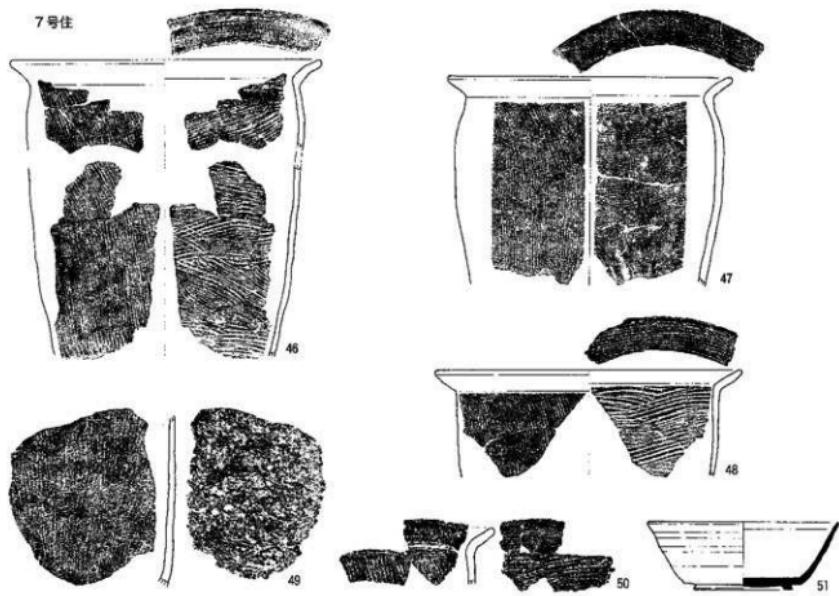


第20図 2号住居跡・3号住居跡出土物

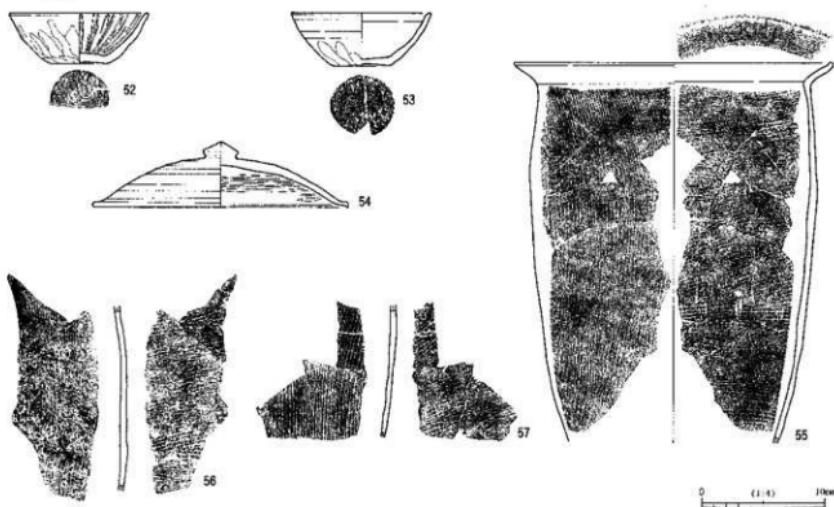


第21図 4号住居跡・6号住居跡出土遺物

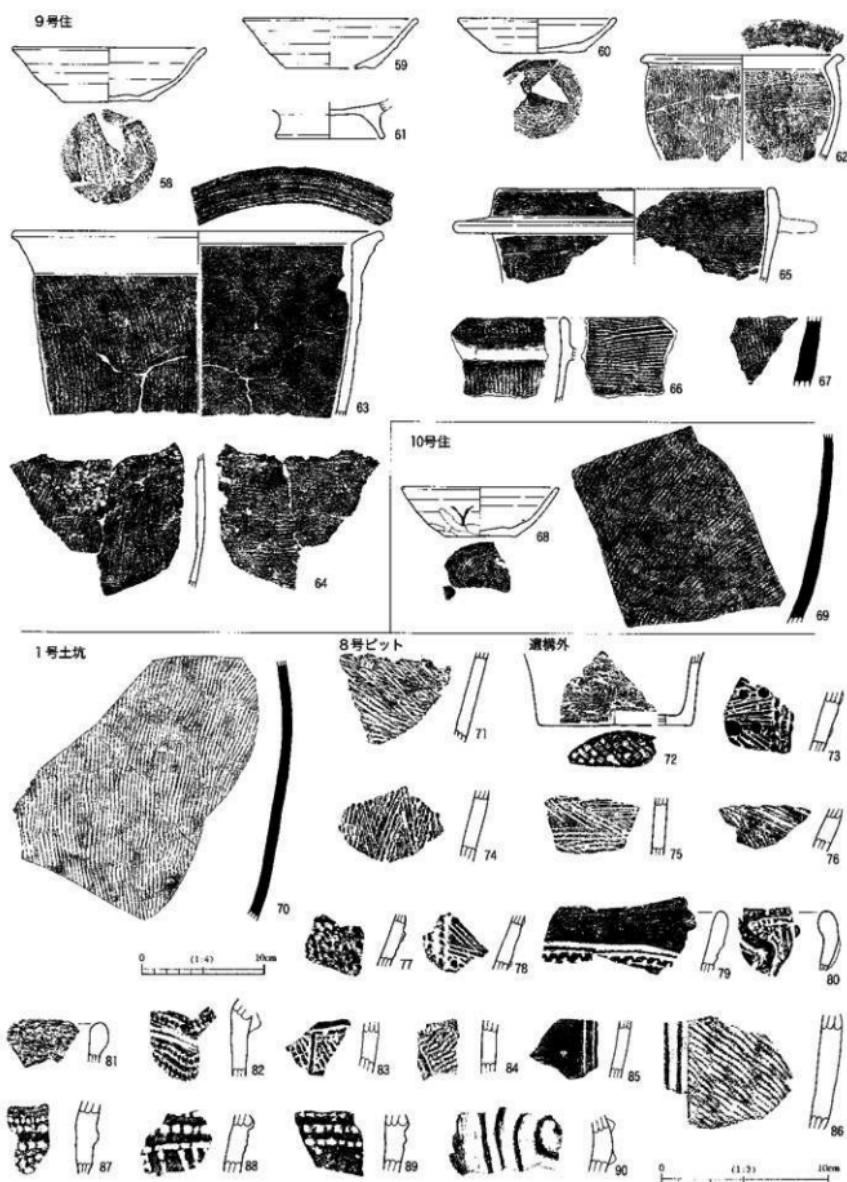
7号住



8号住



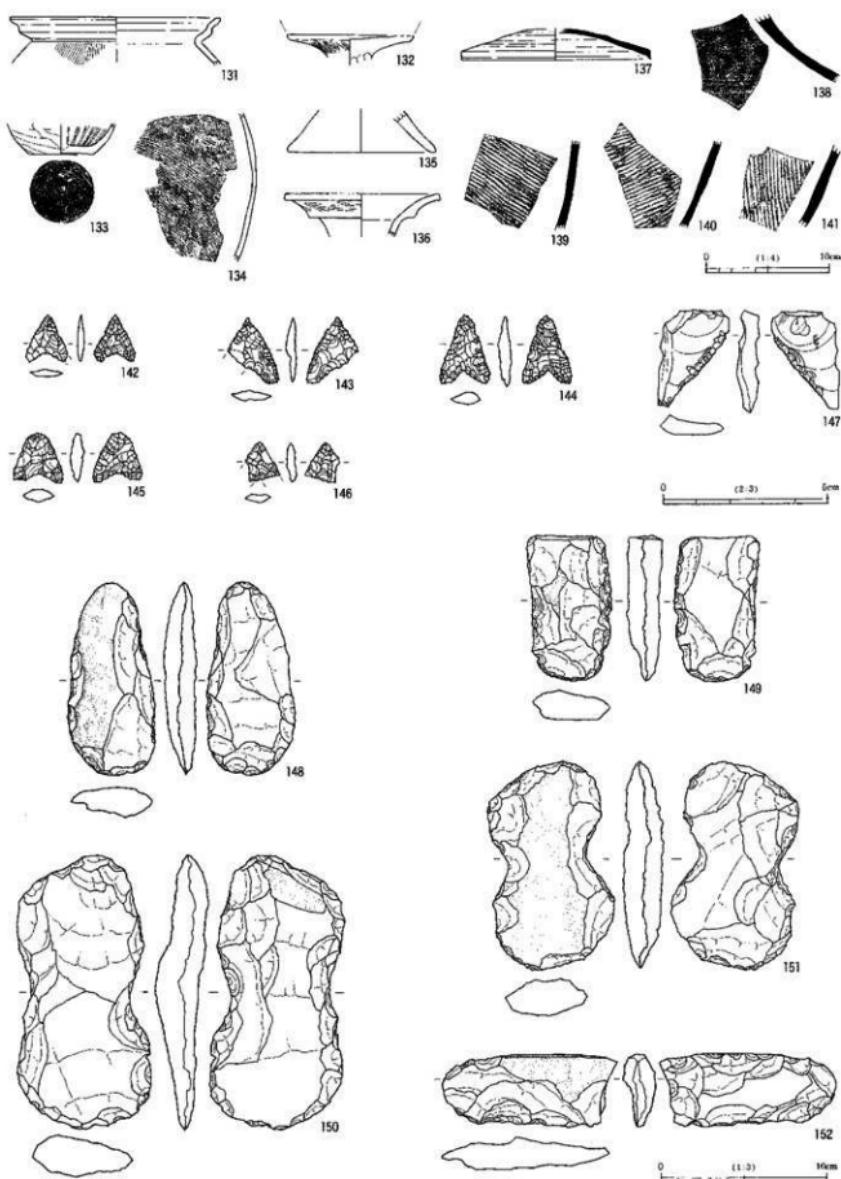
第22図 7号住居跡・8号住居跡出土遺物



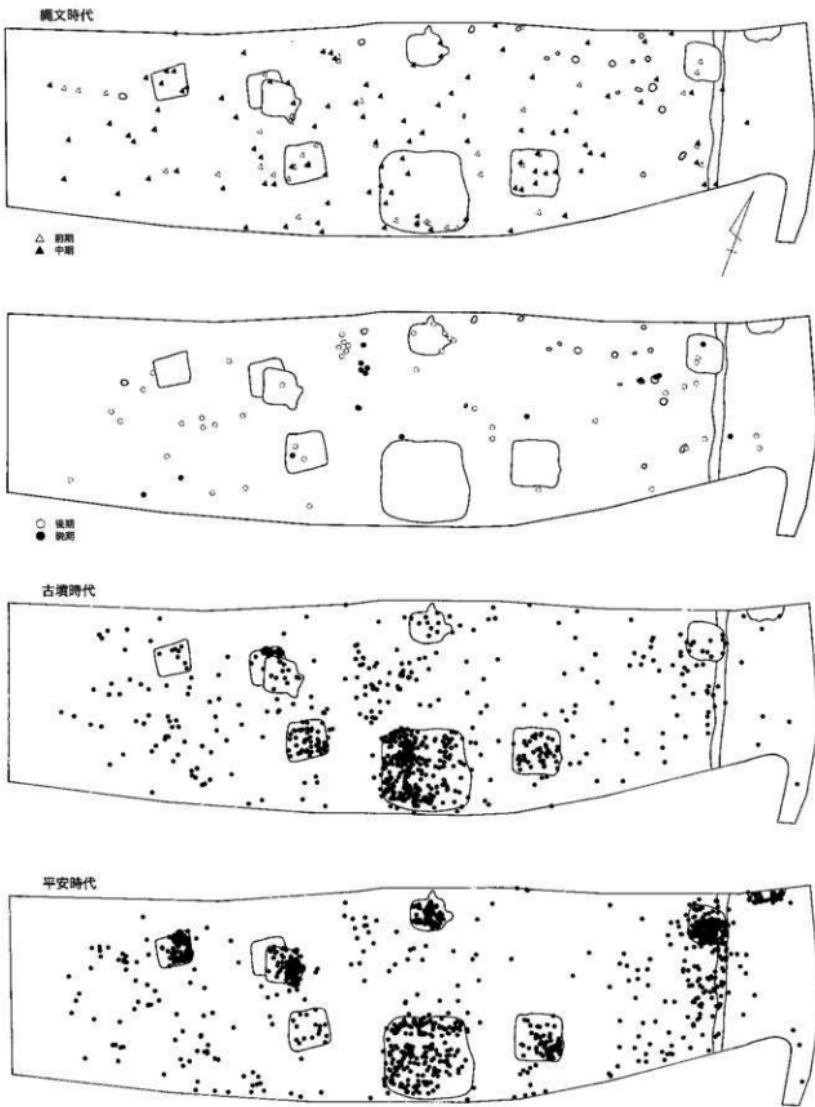
第23図 9号住居跡・10号住居跡・土坑・ピット・遺構外出土遺物



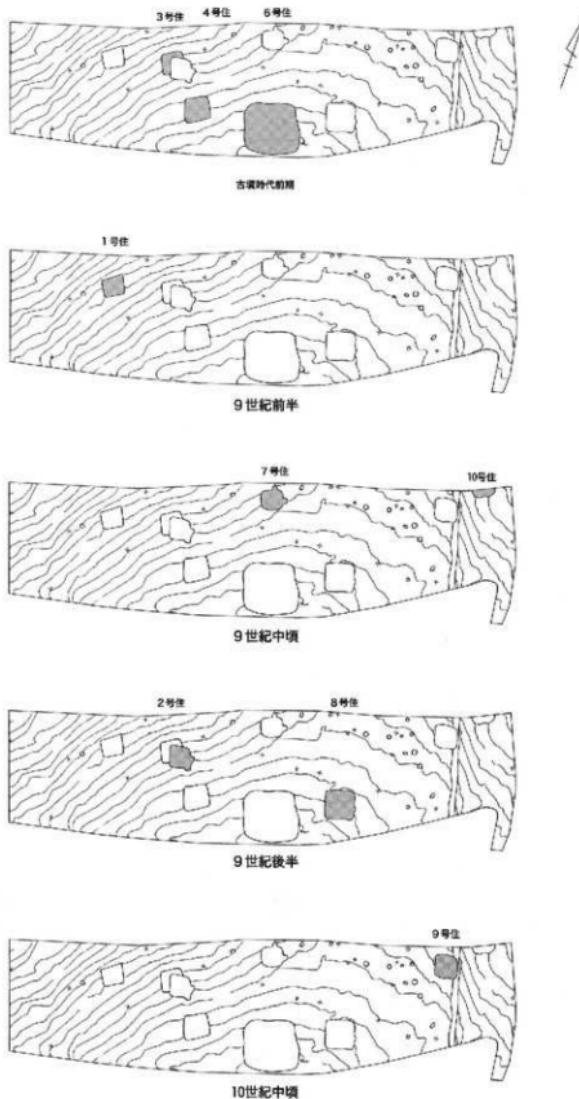
第24図 遺構外出土遺物



第25図 遺構外出土遺物



第26図 遺物出土状況



第27図 遺構変遷図

第1表 長坂町遺跡分布一覧

(旧石→旧石器時代 横=樹木時代 弓=弥生時代 古=古墳時代 平=平安時代 中=中世 戦国=戦国時代 江戸=江戸時代)

053	篠田遺跡	縄 千 平	114	大々神A遺跡	平	158	上日野C遺跡	縄 千
056	浜田北遺跡	半	115	人々神B遺跡	古 平	159	越後保連跡	古 江戸
057	浜田東遺跡	弥 平 中	116	治部相馬路	古 平	160	日野原遺跡	中 江戸
059	東原遺跡	中	117	須無A遺跡	平	161	上日野B遺跡	縄 平 中 江戸
060	柳原前瀬跡	縄 古 平	118	桜木遺跡	縄 古	162	高麗遺跡	江戸
062	柳原A遺跡	縄 古 平	119	堀川・南坪遺跡	縄 江戸	164	大林遺跡	禪 平 江戸
063	柳原B遺跡	縄 弥 古 平	120	須無B遺跡	縄 古	167	西屋敷遺跡	古
064	小屋遺跡	縄 平 中	121	新田遺跡	縄	168	上町南遺跡	縄
065	久慈地廻跡	縄	122	塙之城廻跡	縄 平	169	船角西遺跡	縄 古 平 中 近代
066	城山遺跡	縄 弥 平 中	123	堀川北遺跡	古 平	170	諸角遺跡	縄 古 平 中
067	成瀬田遺跡	縄 平 中	124	原町遺跡	江戸	171	長坂上・北遺跡	縄 古 平
068	向ヶ瀬跡	縄 半	125	上久保北遺跡	巣 半	172	久保鬼遺跡	縄
069	石原川北遺跡	縄 平 中	126	篠原川の七島	中 戦国	173	新宿区幾谷遺跡	旧石 縄 平 中 江戸
070	石原川南遺跡	縄 半	127	下村遺跡	縄 平 中	174	長坂下・藤原	
071	猿原遺跡	縄	128	堀川十三塚群	中	175	和田遺跡	弥 占
073	久保遺跡	縄	129	久保久保跡	縄 平 中	176	古宮敷遺跡	縄
074	房越畠遺跡	縄 江戸	130	下村山遺跡	縄	177	泥里遺跡	縄
080	和手川東遺跡	中	131	祝佐西遺跡	縄 平	179	赤沢・上野遺跡	縄
081	小屋平遺跡	IH石 縄 中	132	見兄遺跡	縄 平	180	下間敷北遺跡	縄 半
082	筒の坂遺跡	縄	133	越馬鹿遺跡	縄 平	181	柳叶山南遺跡	平
086	弓の道遺跡	縄 平	134	寺前遺跡	縄 平 中	182	柳坪北遺跡	縄 弥 平 中
087	慶宗遺跡	縄	135	上久保遺跡	縄	183	境原遺跡	縄 弥 平
088	城山II北遺跡	岡 平 中 江戸	136	反田遺跡	縄 平 中	184	北村北遺跡	縄 平
089	城山II南遺跡	縄 中	137	三井氏館跡	中 江戸	185	酒呑場草薙遺跡	縄 弥 平
090	丸丸若北	戦國	138	北村若北遺跡	縄 古 半	186	山本遺跡	縄
091	猪久保遺跡	縄 平	139	新所遺跡	縄 平	187	北村東塚跡	縄 占
092	溝手I櫻美術館南遺跡	縄	140	福吉氏邸敷址	中	188	大久保遺跡	縄 中
093	綱久保遺跡	縄	141	稻荷山遺跡	奈 平	189	天王塚古墳	占
098	下角ノ保遺跡	縄	142	梅松寺農園物販	中	190	池之平北遺跡	縄 平
099	久保遺跡	縄 江戸	143	下星ヶ原遺跡	縄	191	清水原北遺跡	縄 占
100	高松遺跡	縄	144	猪水原遺跡	縄 古 奈 平	192	成岡・鹿坂	
101	上町遺跡	縄 奈	145	向原遺跡	平	194	馬鹿塚場	中
102	酒呑場跡	旧石 縄 古 平 江戸	146	ツツガニ古墳2(酒城)	占	195	稻垣遺跡	縄 平 中
103	東村山遺跡	縄 奈 平 中 江戸	147	農業高校官宿跡	縄 古 平	196	治部田北遺跡	平
104	東村山遺跡	古 平 中 江戸	148	ツツガニ古墳3(酒城)	占	197	竹原遺跡	縄 中 江戸
105	中村遺跡	古 平 中 江戸	149	ツツガニ古墳1	占	198	天白作並	中 戦国
106	諫山遺跡	古 平 中 江戸	150	池ノ平昭和堤北遺跡	縄	199	下原遺跡	縄
107	西村遺跡	古 平 中 江戸	151	池ノ平A遺跡	縄 奈 平	200	下日野遺跡	縄
108	中反遺跡	縄 平	152	向井丹下丘墓址	中	206	民坂上・鬼塚遺跡	古 平
109	柳平・麻塚		153	池ノ平B遺跡	縄	207	造之岸遺跡	縄 平
110	長坂兵所塚	古 平 中	154	上日野遺跡	縄 江戸	208	段浦遺跡	旧石 縄 占
111	白山神社新遺跡	縄 平	155	田中氏館敷址	中	209	上日野D遺跡	縄
112	上ノ底原遺跡	縄 平 中 江戸	156	上日野A遺跡	縄 平	210	姫塚遺跡	縄 占 平
113	大々神十三塚	中	157	上日野B遺跡	縄 平	211	上宮久保遺跡	縄

第2表 放射性炭素年代測定および樹種同定結果

出土遺構	試料名	試料の質	樹種	確定年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	Code. No.
3号住居跡	炭化物1	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1910±70	-26.4	IAA-446
	613	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	2090±70	-25.7	IAA-447
	616	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1680±80	-25.7	IAA-448
7号住居跡	炭化物a	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1470±70	-22.9	IAA-433
	炭化物b	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1370±70	-23.1	IAA-434
	炭化物e	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1560±80	-25.8	IAA-435
	炭化物h	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1210±70	-26.1	IAA-449
	炭化物j	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1520±160	-26.4	IAA-436
	炭化物k	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1540±60	-25.6	IAA-437
	炭化物l	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1500±60	-24.8	IAA-438
9号住居跡	炭化物s	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1180±50	-25.4	IAA-439
	炭化物u	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1390±70	-24.1	IAA-440
9号住居跡	炭化物v	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1340±170	-25.9	IAA-441
	炭化物w	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1300±70	-25.6	IAA-442
	炭化物x	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1250±70	-25.7	IAA-443
9号住居跡	炭化物y	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	-	-	-
	炭化物z	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	1150±70	-26.1	IAA-444
9号住居跡	炭化物1	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	860±70	-25.7	IAA-445
	炭化物2	炭化物	コナラ属コナラ座葉クスギ節	-	-	-

1) 年代値の算出は、Libbyの半滅期5570年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差。(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第3表 歴年校正結果

出土遺物と試料名	補正年代 (BP)	歴年校正年代 (cal)						相対比	Code No.
		cal AD 4	cal AD 10	cal BP 1,946	—	1,940	0.026		
3号住居跡 炭化物1	1910±70	cal AD 19	cal AD 135	cal BP 1,931	—	1,815	0.793		
		cal AD 134	—	cal AD 175	cal BP 1,796	—	1,775	0.096	
		cal AD 193	—	cal AD 211	cal BP 1,757	—	1,739	0.084	
		cal BC 330	cal BC 325	cal BP 2,284	—	2,275	0.017	IAA-447	
3号住居跡 613	2090±70	cal BC 202	—	cal BC 37	cal BP 2,152	—	1,987	0.895	
		cal BC 32	—	cal BC 20	cal BP 1,982	—	1,970	0.044	
		cal BC 12	—	cal BC	cal BP 1,962	—	1,950	0.044	
		cal AD 242	—	cal AD 434	cal BP 1,708	—	1,516	1.000	IAA-448
7号住居跡 616	1680±80	cal AD 444	—	cal AD 446	cal BP 1,504	—	1,504	0.004	IAA-433
		cal AD 471	—	cal AD 478	cal BP 1,479	—	1,471	0.032	
		cal AD 531	—	cal AD 656	cal BP 1,419	—	1,294	0.964	
		cal AD 603	—	cal AD 693	cal BP 1,347	—	1,257	0.822	IAA-434
7号住居跡 炭化物b	1370±70	cal AD 699	—	cal AD 715	cal BP 1,251	—	1,235	0.092	
		cal AD 750	—	cal AD 763	cal BP 1,200	—	1,187	0.086	
		cal AD 422	—	cal AD 364	cal BP 1,528	—	1,386	0.930	IAA-435
		cal AD 571	—	cal AD 578	cal BP 1,379	—	1,372	0.029	
7号住居跡 炭化物h	1210±70	cal AD 588	—	cal AD 597	cal BP 1,362	—	1,353	0.040	
		cal AD 694	—	cal AD 697	cal BP 1,256	—	1,253	0.020	IAA-449
		cal AD 717	—	cal AD 748	cal BP 1,233	—	1,201	0.177	
		cal AD 766	—	cal AD 886	cal BP 1,184	—	1,061	0.803	
7号住居跡 炭化物j	1520±60	cal AD 410	—	cal AD 451	cal BP 1,510	—	1,499	0.075	IAA-436
		cal AD 465	—	cal AD 518	cal BP 1,485	—	1,432	0.346	
		cal AD 328	—	cal AD 601	cal BP 1,422	—	1,349	0.579	
		cal AD 434	—	cal AD 563	cal BP 1,516	—	1,387	0.973	IAA-437
7号住居跡 炭化物k	1540±60	cal AD 591	—	cal AD 596	cal BP 1,359	—	1,355	0.027	
		cal AD 442	—	cal AD 448	cal BP 1,508	—	1,502	0.032	IAA-438
		cal AD 468	—	cal AD 482	cal BP 1,482	—	1,468	0.071	
		cal AD 530	—	cal AD 640	cal BP 1,420	—	1,310	0.897	
7号住居跡 炭化物s	1180±50	cal AD 776	—	cal AD 896	cal BP 1,174	—	1,054	0.910	IAA-439
		cal AD 923	—	cal AD 940	cal BP 1,027	—	1,010	0.090	
		cal AD 564	—	cal AD 589	cal BP 1,386	—	1,361	0.116	IAA-440
		cal AD 596	—	cal AD 690	cal BP 1,354	—	1,260	0.880	
7号住居跡 炭化物v	1340±70	cal AD 639	—	cal AD 722	cal BP 1,311	—	1,228	0.785	IAA-441
		cal AD 742	—	cal AD 770	cal BP 1,206	—	1,180	0.215	
		cal AD 661	—	cal AD 774	cal BP 1,289	—	1,176	1.000	IAA-442
		cal AD 686	—	cal AD 783	cal BP 1,264	—	1,167	0.635	IAA-443
7号住居跡 炭化物t	1250±70	cal AD 789	—	cal AD 829	cal BP 1,161	—	1,121	0.229	
		cal AD 839	—	cal AD 864	cal BP 1,111	—	1,084	0.136	
		cal AD 782	—	cal AD 791	cal BP 1,168	—	1,159	0.061	IAA-444
		cal AD 811	—	cal AD 844	cal BP 1,139	—	1,106	0.195	
9号住居跡 炭化物1	1150±70	cal AD 855	—	cal AD 904	cal BP 1,095	—	1,046	0.316	
		cal AD 912	—	cal AD 976	cal BP 1,038	—	974	0.427	
		cal AD 1,043	—	cal AD 1,092	cal BP 907	—	858	0.295	IAA-445
		cal AD 1,119	—	cal AD 1,140	cal BP 831	—	810	0.130	
9号住居跡 炭化物2	860±70	cal AD 1,154	—	cal AD 1,224	cal BP 796	—	726	0.504	
		cal AD 1,228	—	cal AD 1,241	cal BP 722	—	709	0.071	

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M. Stuiver and P.J. Reimer) を使用  
計算には表に示した丸める前の値を使用している。

付記した誤差は、測定誤差  $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

第4表 石器一覧表

回数	番号	出土位置	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
第25回	142	遺構外	石錐	1.45	1.25	0.2	0.2	黒曜石	
第25回	143	遺構外	石錐	2.0	(1.7)	0.3	0.5	黒曜石	片脚欠損
第25回	144	遺構外	石錐	2.15	1.58	0.4	0.7	黒曜石	
第25回	145	遺構外	石錐	(1.55)	(1.55)	0.4	0.6	黒曜石	片脚欠損
第25回	146	遺構外	石錐	(1.2)	(1.05)	0.3	0.2	黒曜石	西脚欠損
第25回	147	遺構外	刮削器	3.1	2.1	0.65	2.7	黒曜石	
第25回	148	遺構外	打製石斧	11.8	5.3	2.0	129.8	流紋岩	
第25回	149	遺構外	打製石斧	(8.9)	4.8	2.1	117.6	ホルンフェルス	
第25回	150	遺構外	打製石斧	16.6	8.0	2.7	383.9	ホルンフェルス	
第25回	151	遺構外	打製石斧	12.8	7.4	2.3	251.5	ホルンフェルス	
第25回	152	遺構外	柳刃形石器	4.4	(10.2)	1.95	96.3	流紋岩	

第5表 造構内ピット一覧表

遺構名	ピットNo.	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1号住	1	37.5	22	32.9	
	2	38	32	27.8	
	3	21	20	38.9	
	4	35.5	35	39	
	5	33	25.5	35	
2号住	1	51	40	14.6	
	2	29	24		
	3	26	24	23.3	
	4	31	23	25.8	
3号住	1	32.5	25	21.9	
	2	19	19	11.6	
	3	41	33	15.3	
	4	61.5	53	24	
6号住	1	42	38.4	13.5	
	2	45	38	16.6	
	3	56	41	12	
	4	88	66	24.2	
	5	59	52	15.6	
	6	54	53	13.5	
	7	75	69	21.9	
	8	38	29	10	
	9	89	88	21.5	
	10	52	36	52.2	
	11	76.5	69	44.9	
7号住	1	49	31.6	40	
	2	53	46.5	40.3	
	3	67.5	(48)	35.8	
	4	49.4	35	32.1	
	5	67	57	35.2	
	6	66	44	10.2	
	7	22	18	8	
10号住	1	50	41	42	単柱穴
	2	46	35.5	54	単柱穴
	3	46	35.5	54	単柱穴

第6表 土坑・ピット一覧

遺構名	出土位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1号土坑	C-3	79.0	55.0	38.9	
1号ピット	D-5	78.0	58.0	31.5	
2号ピット	C-6	48.0	32.0	40.0	
3号ピット	D-6	90.0	58.0	29.0	
4号ピット	E-8	56.0	48.0	45.0	1号獨立
5号ピット	D-8	48.0	39.0	40.0	1号獨立
6号ピット	D-7	61.0	51.0	42.0	1号獨立
7号ピット	D-7	88.0	80.0	25.0	
8号ピット	D-8	81.0	76.0	35.0	1号獨立
9号ピット	D-8	86.0	74.0	33.0	
10号ピット	D-6	70.0	50.0	38.0	
11号ピット	D-7	58.0	44.0	51.0	
12号ピット	D-7	52.0	42.0	47.0	
13号ピット	D-8	50.0	41.0	35.0	1号獨立
14号ピット	D-8	76.0	49.0	34.0	1号獨立
15号ピット	D-8	120.0	52.0	32.0	
16号ピット	C-8	62.0	54.0	28.0	

第7表 土器一覧表

四	器物名	時代	時期	形式	出土	性質	残存部	断面	底面	壁厚	口径	底径	高さ(cm)	その他の	記述	色調	説明	特徴
21905	1号住中型	-	-	土師器	手製單片	4.8	32.2	8.0	-	75.0	57.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色, 手捏ね	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね		
21906	2号住中型	-	-	土師器	手製	50%	4.4	(12.3)	8.9	-	124.8	87.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21908	3号住平底	-	-	土師器	手製	60%	4.5	12.6	6.4	-	121.1	87.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21909	4号住平底	-	-	土師器	手製	20%	(9.1)	(23.0)	-	-	135.7	95.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21910	5号住平底	-	-	土師器	手製單片	-	-	-	-	-	130.7	95.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21911	6号住平底	-	-	土師器	手製單片	-	-	-	-	-	148.0	95.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21912	7号住中型	-	-	土師器	手製	70%	(17.0)	(33.8)	-	-	148.0	95.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21913	8号住中型	-	-	土師器	手製	10%	(15.6)	(15.6)	-	-	188.0	95.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21914	9号住平底	-	-	土師器	手製	20%	(34.0)	(16.6)	-	-	192.0	122.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21915	9号住平底	-	-	土師器	手製	9%	8.7	13.7	8.4	-	186.8	87.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21916	10号住中型	-	-	土師器	手製	70%	3.3	(36.6)	-	-	28.1	19.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21917	11号住中型	-	-	陶器	手製	60%	4.2	(33.9)	-	-	102.7	87.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21918	12号住中型	-	-	陶器	手製	60%	-	-	-	-	360.1	100.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21919	13号住中型	-	-	陶器	手製	-	-	-	-	-	74.4	117.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21920	14号住中型	-	-	陶器	手製	-	-	-	-	-	65.4	117.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21921	15号住平底	-	-	陶器	手製	60%	(3.7)	(25.0)	-	-	30.5	23.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21922	16号住平底	-	-	陶器	手製	60%	(3.7)	(25.2)	-	-	31.6	24.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21923	17号住中型	-	-	陶器	手製	72%	(7.4)	(8.0)	-	-	79.3	100.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21924	18号住中型	-	-	陶器	手製	60%	(6.8)	(25.0)	-	-	32.4	23.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21925	19号住平底	-	-	陶器	手製	60%	(5.0)	(23.2)	-	-	60.1	43.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21926	20号住中型	-	-	陶器	手製	60%	(7.4)	(25.0)	-	-	343.2	100.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21927	21号住中型	-	-	陶器	手製	60%	(7.4)	(25.0)	-	-	38.4	23.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21928	22号住中型	-	-	陶器	手製	60%	(7.1)	(26.4)	-	-	197.0	100.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	
21929	23号住中型	-	-	陶器	手製	60%	(6.0)	(23.5)	-	-	165.0	94.0	37.0	25.0	外:灰褐色, 内:灰白色	(内)灰褐色 (外)灰褐色	手捏ね	

第7表 十四—廿表

第7章 土壤-數字

第8張 遺構別出十七器內試表



調査区全景（南から）

図版 2



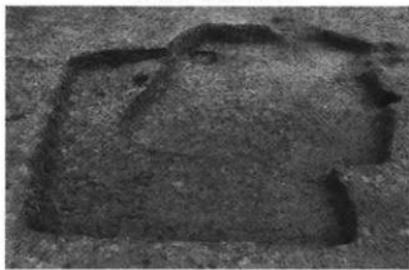
調査区全景（真上から）



1号住居跡 全景（西から）



1号住 遺物出土状況



2・3号住居跡 全景（西から）



2号住 1号カマド



2号住 2号カマド



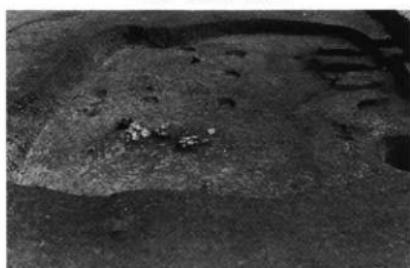
3号住 遺物出土状況①



3号住 遺物出土状況②



4号住居跡 全景（南から）



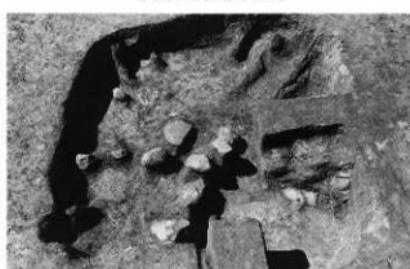
6号住居跡 全景（西から）



6号住 遺物出土状況



7号住居跡 全景（南から）



7号住 炭化物出土状況

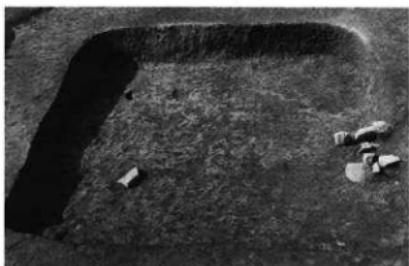
図版 4



7号住 2号カマド



7号住 遺物出土状況



8号住居跡 全景（南から）



8号住 カマド



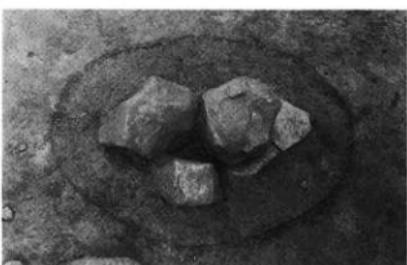
9号住居跡 全景（南から）



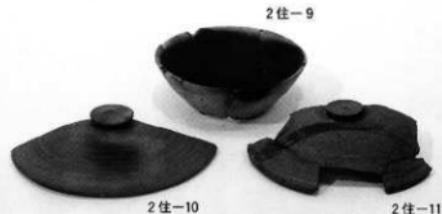
9号住 遺物出土状況



10号住居跡 全景（南から）

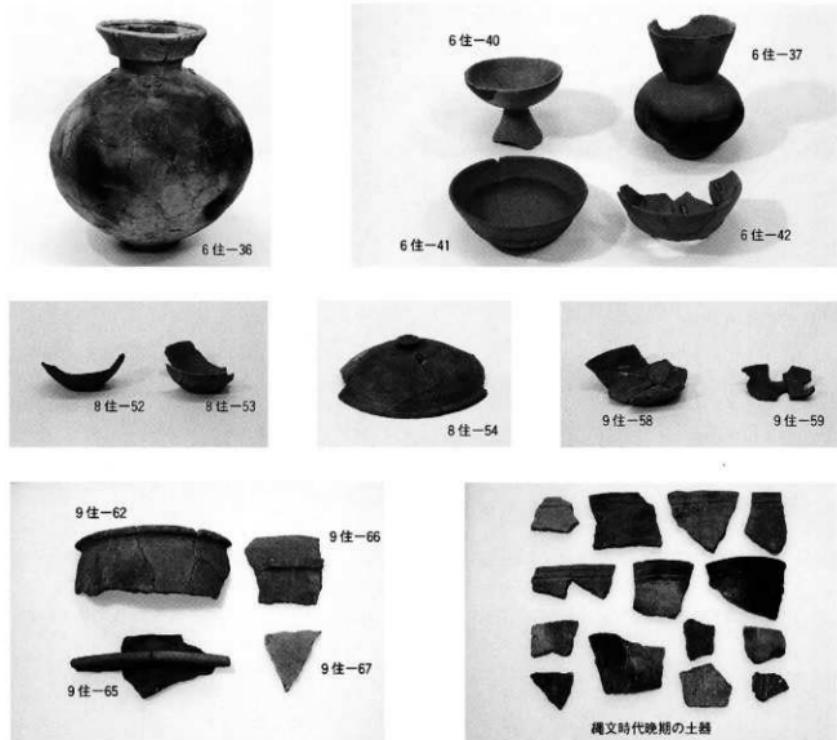


1号土坑 遺物出土状況

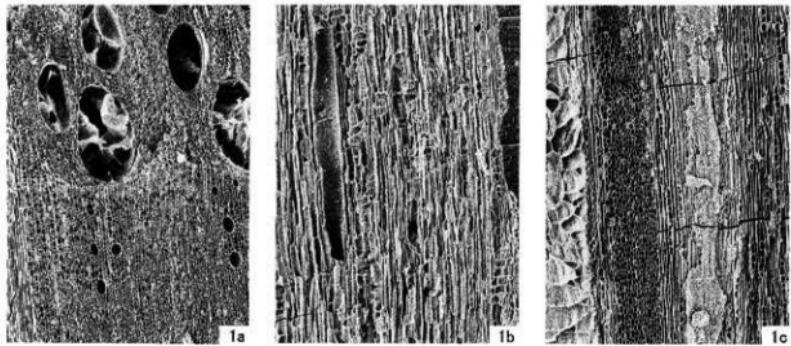


出土遺物①

図版6



出土遺物②



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(7住 炭化物)  
a:木口, b:板目, c:板目

炭化材断面拡大写真

## 報告書抄録

フリガナ	アリヅカイセキ
書名	蟻塚遺跡
副題	中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第29集
著者名	長谷川誠
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111(㈹)
印刷所	光灯青箱株式会社 〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
発行日	2004年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条字蟻塚地内
遺跡番号	長坂町 №210
1/25,000地図名 位置・標高	若神子 北緯35° 49' 08" 東経138° 22' 51" 標高685m
調査原因	中山間活性化ふれあい支援農道整備事業
調査期間	2003年2月11日～2003年3月31日
調査面積	1,617m <sup>2</sup>
主な時代	縄文時代・平安時代
主な遺構	古墳時代（堅穴住居跡3軒） 平安時代（堅穴住居跡6軒、掘立柱建物跡1棟、土坑1基、ビット16基） その他（溝1条）
主な遺物	縄文時代（土器、石器、黒曜石） 古墳時代（土師器） 平安時代（土師器、黑色土器、須恵器、灰釉陶器）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集

## 蟻塚遺跡

2004年3月25日 印刷

2004年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会

〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19

TEL 0551-32-2111㈹

印 刷 鬼灯書籍株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

TEL 026-244-0235㈹



